

諏訪湖周クリーンセンター施設整備に
係る環境影響評価事後調査報告書
(平成28-29年度大気質調査)

平成29年12月

湖周行政事務組合

目次

第1章 事業の概要

1. 事業の名称	1-1
2. 事業者の名称及び住所	1-1
3. 事業の種類	1-1
4. 事業の目的	1-1
5. 事業実施区域の位置	1-1
6. 施設全体配置図及び全体動線図	1-3
7. 施設の概要	1-6

第2章 事後調査の結果

1. 調査概要	2-1
(1) 大気質	2-1
(2) 地上気象	2-5
2. 事後調査結果の概要	2-6
(1) 地上気象	2-6
(2) 大気質	2-12
(3) 考察及び評価	2-25

第1章 事業の概要

1. 事業の名称

湖周地区ごみ処理施設整備に係る環境影響評価事後調査(平成28-29年度大気質調査)業務

2. 事業者の名称及び住所

湖周行政事務組合 組合長 今井 竜五
長野県岡谷市内山4769番14外

3. 事業の種類

一般廃棄物処理施設（ごみ焼却施設^{*1}）

^{*1}廃棄物処理法第8条第1項の政令で定めるごみ処理施設のうち、焼却施設（1時間あたりの処理能力が200kg以上または火格子面積が2㎡以上のものに限る。）

4. 事業の目的

湖周行政事務組合では、長野県環境影響評価条例（平成10年3月30日長野県条例第12号）の規定により、過年度にごみ処理施設建設に係る環境影響評価^{*2}を実施した。

総合評価として、「本事業実施による環境への影響は総合的に小さい」と評価したものの、計画施設の稼働による大気質〔二氧化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、微小粒子状物質(PM2.5)、カドミウム、鉛、水銀〕への影響については、『予測結果^{*3}は、環境保全に関する目標を満足しているが、周辺住民の関心が高いことや施設の詳細な設備・機器が未確定であり、稼働する設備・機器の諸元等が予測条件と異なる場合があることから事後調査を行う。』こととしたことから、新ごみ処理施設「諏訪湖周クリーンセンター」が立地している敷地（以下、「事業実施区域」という。）及びその周辺において、施設の存在・供用による影響の有無を確認するため、大気質の現地調査を実施する。

なお、事後調査を行う時点は、施設の稼働が定常となった時点とし、施設が供用開始した平成28年12月1日以降とした。

^{*2}湖周行政事務組合ごみ処理施設建設に係る環境影響評価書 平成25年11月 湖周行政事務組合

^{*3}予測結果は、気象条件に現地の実測値を用いていることに加え、評価書策定時点で確定していない施設・設備等については、基本的に危険側（環境への影響が大きくなる側）の予測条件を設定して、算定したものである

5. 事業実施区域の位置

事業実施区域の位置を図1-1(次頁)に示す。

事業実施区域は、岡谷市の中心部（岡谷市役所）から西へ直線距離で約2km離れたところに位置している。

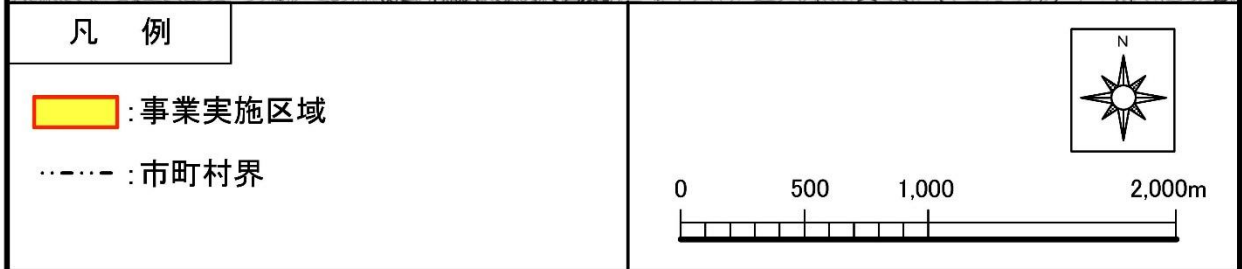
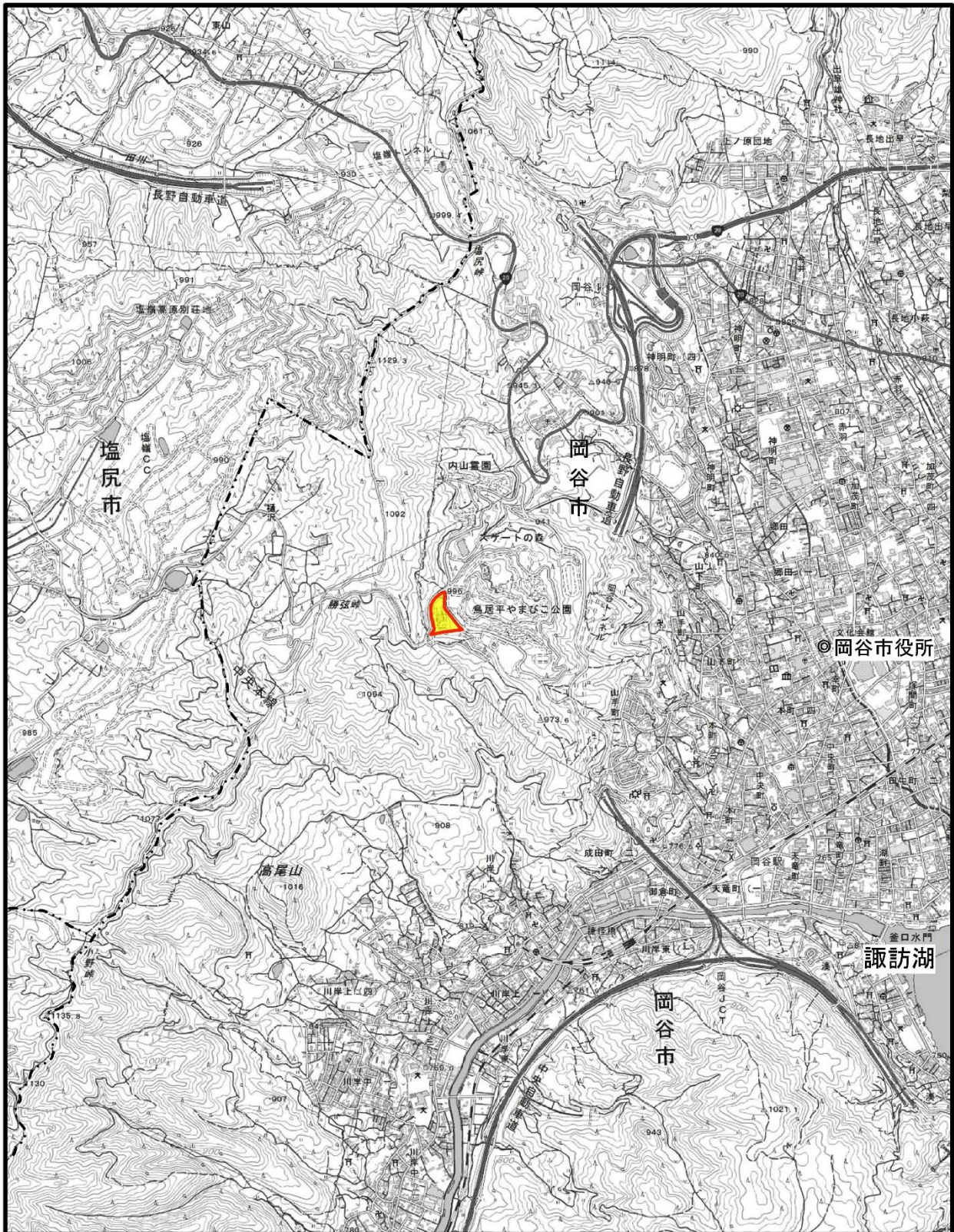


図1-1. 事業実施区域の位置

6. 施設全体配置図及び全体動線図

施設全体配置図及び全体動線図を図1-2に、施設完成後の全体写真を図1-3(次頁)に示す。

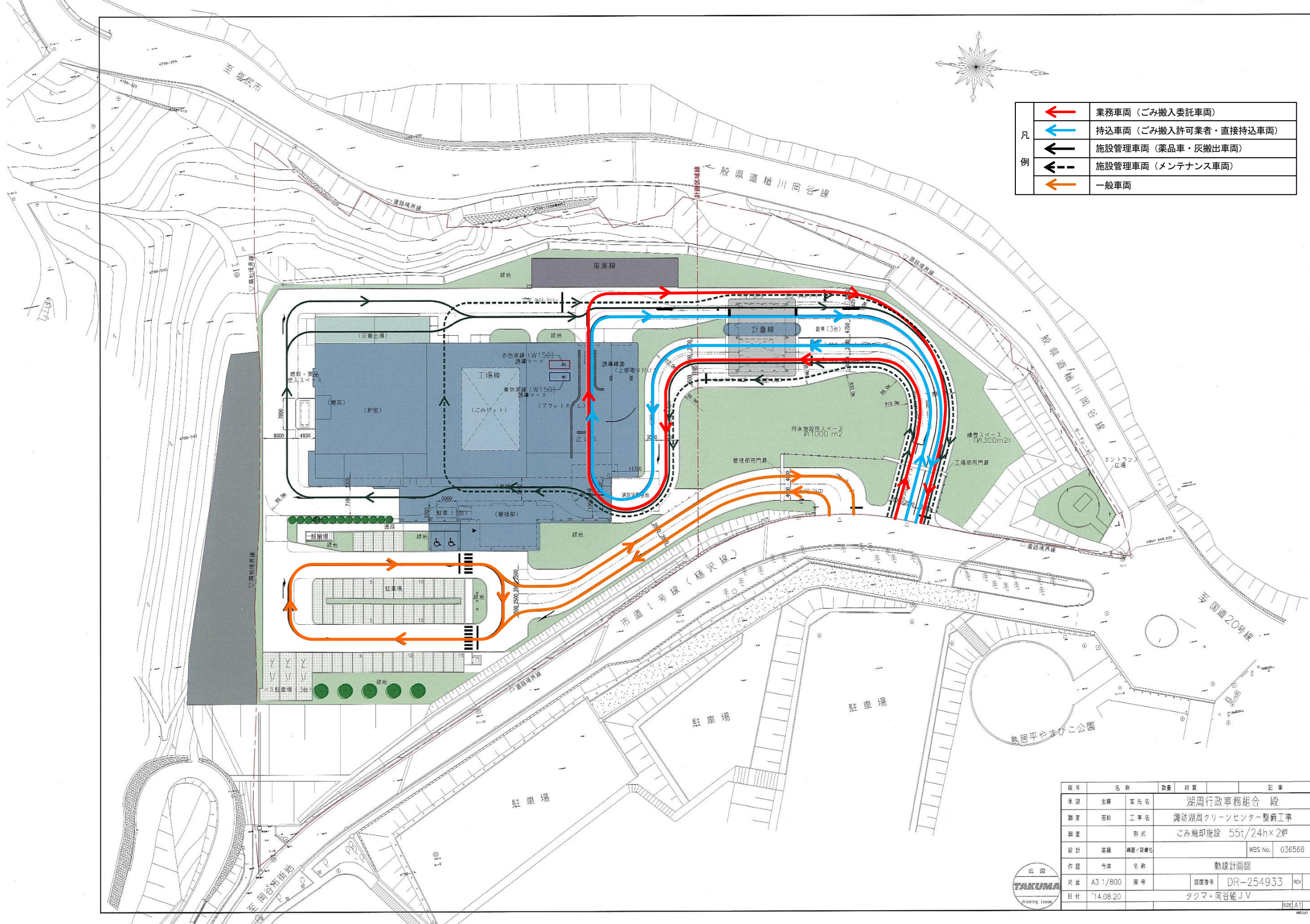


図1-2. 施設全体配置図及び全体動線図



図1-3. 施設完成後の全体写真

7. 施設の概要

施設の概要を表1-1に示す。

表1-1. 施設の概要

項目	内容		
	評価書時	施設稼動後	
施設の名称	湖周行政事務組合 ごみ処理施設	諏訪湖周クリーンセンター	
処理する一般廃棄物の種類	可燃ごみ、可燃性粗大ごみ、破砕選別後可燃物	一般廃棄物の可燃ごみ、破砕・選別後残渣(大型可燃ごみ)	
燃焼方式	全連続燃焼方式	同左	
処理方式	ストーカ式	同左	
施設の処理能力	110t/日	同左	
稼動開始年月日	平成28年9月	平成28年12月1日	
炉数	2炉	同左	
煙突	高さ	59m	同左
	頂部直径	0.6mφ	同左
余熱利用設備	発電	同左	
年間発電電力量	11,406MWh/年	約15,000MWh/年	
湿り排ガス量(1炉あたり)	19,480Nm ³ /h・炉	低質ごみ 10,550Nm ³ /h・炉 基準ごみ 13,760Nm ³ /h・炉 高質ごみ 16,680Nm ³ /h・炉	
乾き排ガス量(1炉あたり)	16,900Nm ³ /h・炉	低質ごみ 8,010Nm ³ /h・炉 基準ごみ 11,300Nm ³ /h・炉 高質ごみ 14,310Nm ³ /h・炉	
計画排ガス濃度	法規制値 (下記値以下)	計画値 (下記値以下)	自主保証値 (下記値以下)
ばいじん	0.04g/Nm ³ *1	0.01g/Nm ³ *1	0.007g/Nm ³ *1
硫黄酸化物	K値14.5	30ppm*1	25ppm*1
窒素酸化物	250ppm*1	100ppm*1	90ppm*1
塩化水素	700mg/Nm ³ *1 (430ppm)*1	50ppm*1	40ppm*1
ダイオキシン類	0.1ng-TEQ/Nm ³ *1	同左	0.05ng-TEQ/Nm ³ *1
一酸化炭素	100ppm*1	同左	20ppm(4時間平均)*1 80ppm(1時間平均)*1
水銀	0.05mg/Nm ³ *1,*2	同左	同左
鉛	—	10mg/Nm ³ *1	同左
カドミウム	—	1mg/Nm ³ *1	同左

*1乾き排ガス量における酸素濃度12%換算値

*2大気汚染防止法(最終改正：平成28年4月法律第72号)の改定により、廃棄物焼却炉の既存施設では、平成30年4月1日より、同規制値が適用される。

第2章 事後調査の結果

1. 調査概要

(1) 大気質

① 事後調査

評価書に示された大気質の調査地点において、施設の定常運転時の現地調査(以下、「事後調査」という。)を実施した。

大気質の事後調査の調査概要を表2-1に、大気質の測定方法を表2-2に、大気質の測定機器一覧を表2-3(次頁)に、事後調査地点の位置図を図2-1(P. 2-3)に示す。

表2-1. 大気質の事後調査の調査概要 (大気質・事後調査)

調査項目	調査期間		調査場所・地点数
二酸化硫黄(SO ₂) 二酸化窒素(NO ₂)※ 浮遊粒子状物質(SPM) 微小粒子状物質(PM _{2.5}) ダイオキシン類(DXNs)	各季 7日間	冬季:平成29年 2月 1日(水)～ 2月 7日(火) 春季:平成29年 4月12日(水)～ 4月18日(火) 夏季:平成29年 7月26日(水)～ 8月 1日(火) 秋季:平成29年10月 4日(水)～10月10日(火)	St. 1 諏訪湖周クリーンセンター敷地(以下、「諏訪湖周CC」という。)
塩化水素(HCl)	各季 3日間	冬季:平成29年 2月 1日(水)～ 2月 4日(土) 春季:平成29年 4月12日(水)～ 4月15日(土) 夏季:平成29年 7月25日(火)～ 7月28日(金) 秋季:平成29年10月 3日(火)～10月 6日(金)	St. 2 樋沢地区 St. 3 勝弦峠
カドミウム及びその化合物 水銀 鉛及びその化合物	各季 7日間	冬季:平成29年 1月31日(火)～ 2月 7日(火) 春季:平成29年 4月12日(水)～ 4月19日(水) 夏季:平成29年 7月25日(火)～ 8月 1日(火) 秋季:平成29年10月 3日(火)～10月10日(火)	St. 4 岡谷市役所 (計4地点)

※一酸化窒素(NO)、窒素酸化物(NO_x)を含む。

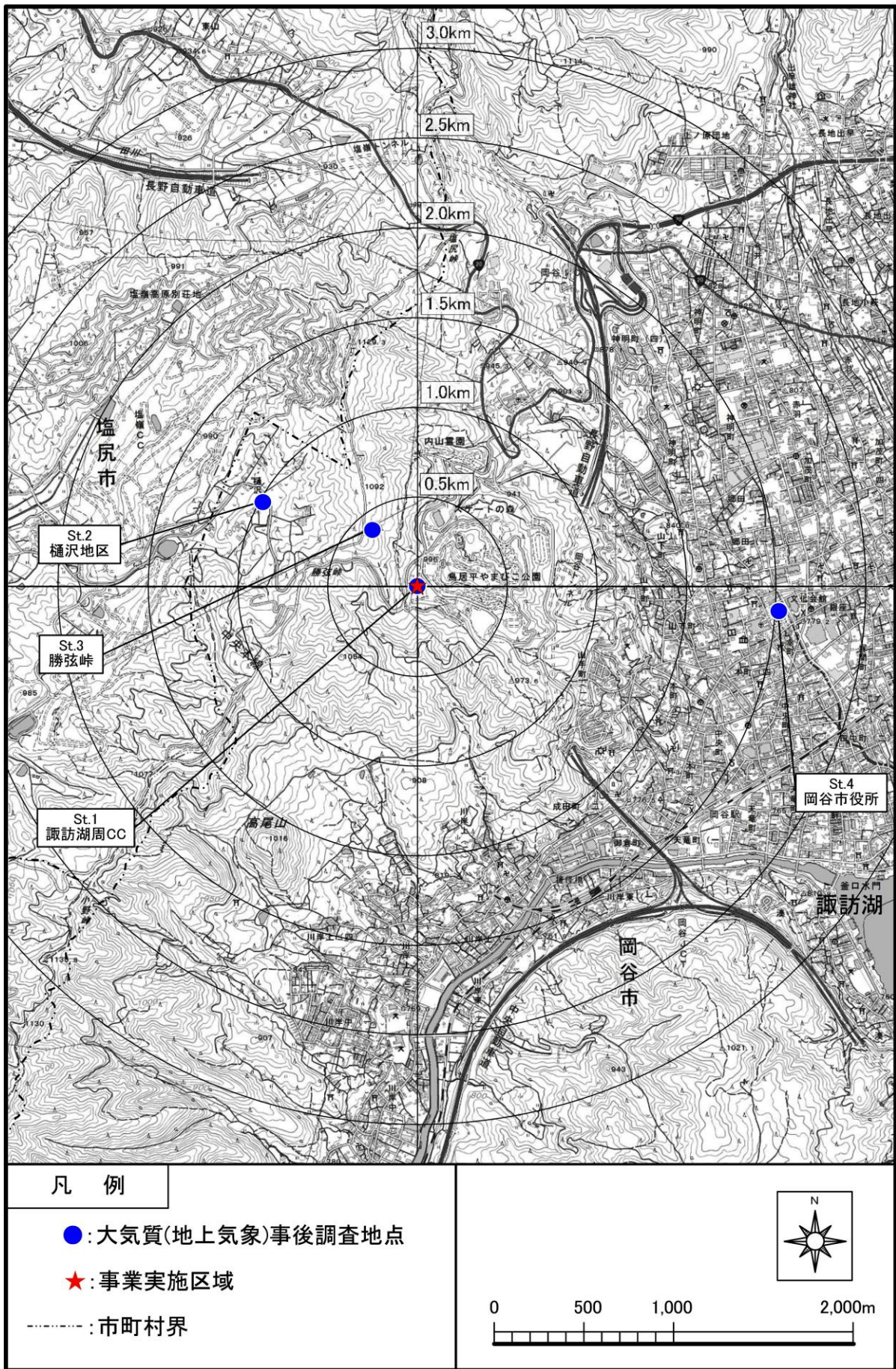
表2-2. 大気質の測定方法 (大気質・事後調査)

調査項目	測定方法	データ情報	測定高
二酸化硫黄	「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年環告25号)に定める測定方法	毎正時	地上 1.5m
二酸化窒素	「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年環告38号)に定める測定方法		
浮遊粒子状物質	「大気汚染に係る環境基準について」(昭和48年環告25号)に定める測定方法		地上 3.0m
微小粒子状物質	「微小粒子状物質に係る環境基準について」(平成21年環告33号)に定める測定方法		
塩化水素	「大気汚染物質測定方法指針(環境庁)」(昭和62年)に定める測定方法	3検体	地上 1.5m
ダイオキシン類	「ダイオキシン類に係る大気環境測定マニュアル(環境省)」(平成20年改正)に定める測定方法	1検体	
カドミウム及びその化合物 水銀 鉛及びその化合物	「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」(平成23年3月改訂)に定める測定方法	7検体	

表2-3. 大気質の測定機器一覧

(大気質・事後調査)

調査項目	測定方法	測定機器
二酸化硫黄	屋外に採取口を設置し、コンテナ内の自動連続測定器(紫外線蛍光法方式 JIS B 7952)で24時間・7日間連続測定する。	二酸化硫黄測定装置 株式会社堀場製作所 APSA-370
二酸化窒素	屋外に採取口を設置し、コンテナ内の自動連続測定器(化学発光法方式 JIS B 7953)で24時間・7日間連続測定する。	大気中窒素酸化物測定装置 株式会社堀場製作所 APNA-360 株式会社堀場製作所 APNA-370
浮遊粒子状物質	屋外に採取口を設置し、コンテナ内の自動連続測定器(β 線吸収法方式 JIS B 7954)で24時間・7日間連続測定する。	浮遊粒子状物質測定装置 東亜データケータ(株) DUB-222 東亜データケータ(株) DUB-357 東亜データケータ(株) DUB-32
微小粒子状物質	屋外に採取口を設置し、コンテナ内の自動連続測定器(ハイブリッド方式(β 線吸収法+光散乱法))で24時間・7日間連続測定する。	微小粒子状物質測定器 サーモフィッシャー・サイエンティフィック ハイブリットモニター SHARP 5030
塩化水素	屋外に採取口を設置し、コンテナ内のエアースンプラーで24時間毎に試料を3日間分採取し、各採取試料をイオンクロマト伝導率法で分析する。	ローボリウムエアースンプラー 株式会社アリカ技研 柴田科学(株)
ダイオキシン類	屋外にハイボリウムエアースンプラーを設置し、24時間・7日間連続吸引により試料を採取し、各採取試料をガスクロマトグラフ法(高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計)で分析する。	ハイボリウムエアースンプラー 柴田科学(株) 紀本電子工業(株)
カドミウム及びその化合物 鉛及びその化合物	屋外にハイボリウムエアースンプラーを設置し、24時間毎に試料を7日間分採取し、採取試料を誘導結合プラズマ質量分析法(ICP-MS)で分析する。	ハイボリウムエアースンプラー 柴田科学(株) 紀本電子工業(株)
水銀	屋外に採取口を設置し、コンテナ内のエアースンプラーで24時間毎に試料を7日間分採取し、各採取試料を金アマルガム捕集加熱気化冷原子吸光法で分析する。	ローボリウムエアースンプラー 柴田科学(株) ジーエルサイエンス(株)



原図：国土地理院の数値地図25000（地図画像）を掲載

図2-1. 事後調査地点の位置図（大気質〔地上気象〕事後調査）

② 既存資料調査〔参考〕

事後調査の大気質濃度レベルがどの程度であるかを客観的に把握するため、評価書の現地調査結果（以下、「評価（現地）」という。）及び評価書の予測結果（以下、「評価（予測）」という。）、並びに事後調査期間中の長野県内の一般環境大気測定局（以下、「一般局」という。）及び自動車排出ガス測定局（以下、「自排局」という。）における大気質濃度を調査した。

評価（現地）の調査概要を表2-4に、評価（予測）の予測概要を表2-5に、一般局及び自排局の調査概要を表2-6（次頁）に示す。

表2-4. 評価（現地）の調査概要 (大気質・既存資料調査)

調査項目	調査期間		調査地点・地点数
二酸化硫黄 (SO ₂) 二酸化窒素 (NO ₂) 浮遊粒子状物質 (SPM) 微小粒子状物質 (PM2.5) ダイオキシソ類 (DXNs)	各季 7日間	春季:平成24年 4月 7日(土)～ 4月13日(金) 夏季:平成24年 8月 3日(金)～ 8月 9日(木) 秋季:平成24年10月26日(金)～11月 1日(木) 冬季:平成25年 1月30日(水)～ 2月 5日(火)	St. 1 旧岡谷市清掃工場 St. 2 樋沢地区
塩化水素 (HCl)	各季 3日間	春季:平成24年 4月 9日(月)～ 4月12日(木) 夏季:平成24年 8月 6日(月)～ 8月 9日(木) 秋季:平成24年10月29日(月)～11月 1日(木) 冬季:平成25年 1月29日(火)～ 2月 1日(金)	St. 3 勝弦峠 St. 4 岡谷市役所
カドミウム及びその化合物 水銀 鉛及びその化合物	各季 7日間	春季:平成24年 4月 6日(金)～ 4月13日(金) 夏季:平成24年 8月 2日(木)～ 8月 9日(木) 秋季:平成24年10月25日(木)～11月 1日(木) 冬季:平成25年 1月29日(火)～ 2月 5日(火)	(計4地点)

備考) 調査は、旧岡谷市清掃工場稼動中に行われたものである。

表2-5. 評価（予測）の予測概要 (大気質・既存資料調査)

予測項目	煙源条件	予測地点
長期平均濃度予測 (年平均の濃度、 日平均の濃度)	表1-1(P.1-6)の「評価書時」に示したとおり	事業実施区域から半径4kmの範囲にある最大着地濃度地点
短期濃度予測 (1時間値の高濃度)		St. 3 勝弦峠 (北西方向へ約0.4km)

表2-6. 一般局及び自排局の調査項目等 (大気質・既存資料調査)

調査項目	調査期間	調査場所	地点数
二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 微小粒子状物質	4季(各季7日間) [表2-1(P.2-1)の事後調査期間中]	松本一般局 [松本市島立1020] 諏訪一般局 [諏訪市上川1-1644-10] 伊那一般局 [伊那市荒井3497]	3地点
二酸化窒素 浮遊粒子状物質 微小粒子状物質	同上	岡谷 I C 自排局 [岡谷市今井1660-4]	1地点

資料：「平成29年度 大気測定計画」長野県環境部水大気環境課

(2) 地上気象

大気質の調査地点における地上気象を把握するため、事後調査を実施した。

地上気象の事後調査の調査概要を表2-7に、地上気象の測定機器一覧を表2-8に示す。

また、地上気象の事後調査地点の位置図は図2-1(P.2-3)に示したとおりである。

表2-7. 地上気象の事後調査の調査概要 (地上気象・事後調査)

調査項目	調査期間	調査場所・地点数	データ情報	測定高
地上気象 (風向・風速)	4季(各季7日間) [表2-1(P.2-1)の事後調査期間中]	大気質の調査地点 (表2-1(P.2-1))と 同一場所 (4地点)	毎正時	地上 10m
地上気象 (気温・湿度)				地上 1.5m

表2-8. 地上気象の測定機器一覧 (地上気象・事後調査)

調査項目	調査方法	測定機器
地上気象 (風向・風速)	「地上気象観測指針(気象庁、2002年)」に定める測定方法	風車型風向風速計 (株)太田計器製作所 クリマテック(株)、ノースワン(株)
地上気象 (気温・湿度)		クリマテック(株)、ヴァイサラ(株)

2. 事後調査結果の概要

(1) 地上気象

① 調査結果の概要

地上気象の調査結果の概要を表2-9に示す。

年間の最多風向は、4地点ともcalmであり、それぞれ16.5%(St. 1)、17.9%(St. 2)、20.1%(St. 3)、18.0%(St. 4)であった。

年間における施設の風下側の割合は、St. 1では23.6%(南南東の風及びcalm)、St. 2では4.9%(東南東の風)、St. 3では1.3%(南東の風)、St. 4では1.0%(西の風)であった。

年間における平均風速は、St. 1及びSt. 3では0.9m/s、St. 2では1.2m/s、St. 4では1.5m/sであり、4地点とも表2-10(次頁)に示す「ビューフォートの風力階級表」の階級1の至軽風に属していた。

表2-9. 地上気象の調査結果の概要

NO	項目	単位	冬季 (2月)	春季 (4月)	夏季 (7月)	秋季 (10月)	年間	
1	最多 風向	St. 1 (諏訪湖周CC)	方位 %	SSE 19.0	calm 19.0	NNE 15.5	calm 17.3	calm 16.5
		St. 2 (樋沢地区)	方位 %	calm 19.0	SE 14.9	calm 27.4	S 21.4	calm 17.9
		St. 3 (勝弦峠)	方位 %	NW 28.0	WSW 23.8	calm 41.7	calm 30.4	calm 20.1
		St. 4 (岡谷市役所)	方位 %	calm 16.7	SW 21.4	calm、 SSW及び NNW 13.7	calm 26.2	calm 18.0
2	施設の 風下側	St. 1 (諏訪湖周CC)	方位 %	SSE 及びcalm*	SSE 及びcalm*	SSE 及びcalm*	SSE 及びcalm*	SSE 及びcalm*
		St. 2 (樋沢地区)	方位 %	ESE 10.1	ESE 7.1	ESE 2.4	ESE 0.0	ESE 4.9
		St. 3 (勝弦峠)	方位 %	SE 2.4	SE 1.2	SE 1.2	SE 0.6	SE 1.3
		St. 4 (岡谷市役所)	方位 %	W 0.0	W 0.0	W 1.2	W 3.0	W 1.0
3	平均 風速	St. 1 (諏訪湖周CC)	m/s	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9
		St. 2 (樋沢地区)	m/s	1.4	1.9	0.8	0.7	1.2
		St. 3 (勝弦峠)	m/s	1.2	1.2	0.5	0.6	0.9
		St. 4 (岡谷市役所)	m/s	1.5	1.9	1.4	1.2	1.5
4	静穏率 (calm)	St. 1 (諏訪湖周CC)	%	14.9	19.0	14.9	17.3	16.5
		St. 2 (樋沢地区)	%	19.0	8.3	27.4	16.7	17.9
		St. 3 (勝弦峠)	%	5.4	3.0	41.7	30.4	20.1
		St. 4 (岡谷市役所)	%	16.7	15.5	13.7	26.2	18.0

*煙源とSt. 1(諏訪湖周CC)が直近であることから、calmも施設の風下側に含めている。

備考1) 「風向」とは風が吹いてくる方向を示す。風が吹いていく方向ではない。

備考2) calm(静穏)は、0.4m/s以下とした。(以下、同様)

備考3) 「1 最多風向」、「2 施設の風下側」及び「4 静穏率」の%値は、出現率を示す。

表2-10. ビューフォートの風力階級表※

階級	表現		相当風速 地上10m	人体に与える影響		基準説明	
	和名	英語名				陸上	海上
0	平 穏	Calm	0.0- 0.2		風を感じない。	静穏。 煙はまっすぐに昇る。	鏡のようになめらか。
1	至 軽 風	Light air	0.3- 1.5		殆ど風を感じない。	風向きは煙がなびくので分かるが、風見には感じない。	うるこのようなさざなみができる。波頭に泡はない。
2	軽 風 (そよ風)	Light breeze	1.6- 3.3	快適	顔に風を感じる。	顔に風を感じる。木の葉が揺れる。風見も動きだす。	一面にさざなみが現れる。波面はまだ砕けない。
3	軟 風	Gentle breeze	3.4- 5.4		髪が乱れる。 衣服がばたつく。	木の葉や細かい小枝がたえず動く。 旗がはためく。	波頭が裂けはじめ、ガラス玉のような泡ができる。白波が見えはじめる。
4	和 風	Moderate breeze	5.5- 7.9		砂埃が立ち、紙片が舞い上がる。 髪が乱される。	砂埃がたち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。	波頭が裂け、波の幅が長くなり、海面の半ば以上に白波が見える。
5	疾 風	Fresh breeze	8.0-10.7	不快	風の力を身体に感じる。	葉のある灌木がゆれはじめる。 池や沼の水面に波頭がたつ。	波頭がつらなりはつきりとしたうねりを作り、海面全体に白波が見える。しぶきもできはじめる。
6	雄 風	Strong breeze	10.8-13.8	不快が甚しい	傘が差しにくい。 普通の歩行が困難。	大枝が動く。電線が鳴る。 傘がさしにくい。	わずかに大きな波の山が現れはじめ、砕けて白く泡立った波頭ができ、しぶきが飛ぶ。
7	強 風	Near gale	13.9-17.1		歩くのに不自由さを感じる。	樹木全体がゆれる。 風に向かっては歩きにくい。	海が荒れだす。大波がたち波頭は砕けて白い泡が海面をおおい、風の方向に長く流れる。
8	疾 強 風	Gale	17.2-20.7		前進を妨げる。	小枝が折れる。 風に向かっては歩けない。	波頭がそびえたち、うねりものびてくる。砕けた白い泡は細い縞をつくって風下に尾を引き、しぶきは渦巻きとなって波頭から分離する。
9	大 強 風	Strong gale	20.8-24.4	危険	突風が人を倒す。	人家に僅かの損害がおこる。 煙突が倒れ、瓦がはがれる。	波頭がさかまきはじめ、海面は泡の縞におおわれる。海がうなり水煙が立ちはじめ。
10	全 強 風	Storm	24.5-28.4			陸地の内部では珍しい。 樹木が根こそぎになる。 人家に大損害がおこる。	波頭がさかまき、大きな泡が白い濃い縞を作る。海面は真っ白になり、水煙で視程が悪い。うなりは強くなり、にぶい打撃音が聞こえる。
11	暴 風	Violent storm	28.5-32.6			めったに起こらないような広い範囲の大損害が起こる。	見上げるような大波となり、海面は風の方向に長くのびた白波の群れにおおわれる。波頭はしぶきとなって吹き飛ばされ水煙に満たされる。
12	台 風	Hurricane	>32.7			被害甚大。 記録的な損害が起こる。	海上はわきたつ。泡と水煙に閉ざされ、視程がいちじるしく悪くなる。うなりがひどく、波の山が吹き飛ばされて海空の境界が不明となる。はっきりした海面が見えなくなる。

※「ビューフォートの風力階級表」をベースにした気象庁風力階級表にPenwardenによる人体への影響を加筆したもの

出典：気象庁資料、『環境アセスメントの技術』（社）環境情報科学センター編、その他資料

「ビューフォートの風力階級表」は、もともと船の航海用に作られたため海上状況だけだったが、今日では陸上状況も加えられ、気象放送等様々な用途に使われている。

② 各調査地点における風向風速

ア. St. 1: 諏訪湖周CC

St. 1で測定した地上気象の年間風配図を図2-2に、年間平均風速を図2-3に示す。

年間の風配は、calm 16.5%が最も多く、次いで北北東の風9.5%、北東の風7.3%が続いていた。

年間の平均風速は、0.9m/sであり、表2-10(前頁)に示す「ビューフォートの風力階級表」の階級1の至軽風に属していた。

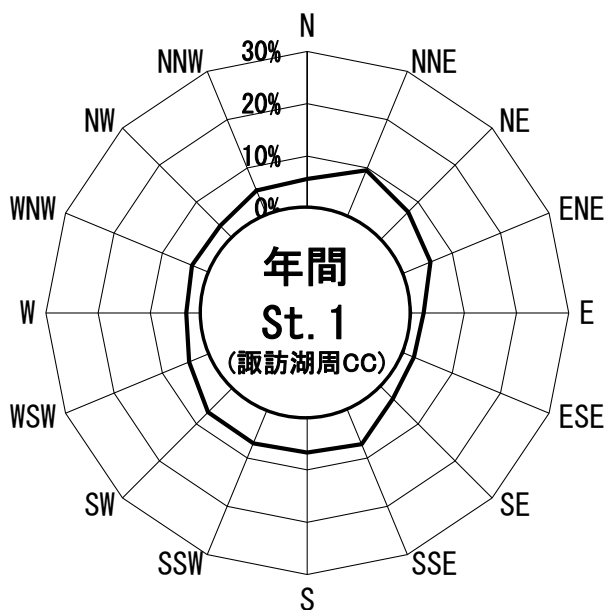


図2-2. 地上気象の年間風配図

風向	年間
calm (施設の風下側)	16.5%
N	5.7%
NNE	9.5%
NE	7.3%
ENE	5.5%
E	2.2%
ESE	2.1%
SE	3.1%
SSE (施設の風下側)	7.1%
S	6.7%
SSW	7.0%
SW	6.8%
WSW	4.5%
W	3.1%
WNW	3.9%
NW	3.6%
NNW	5.4%

(St. 1 諏訪湖周CC)

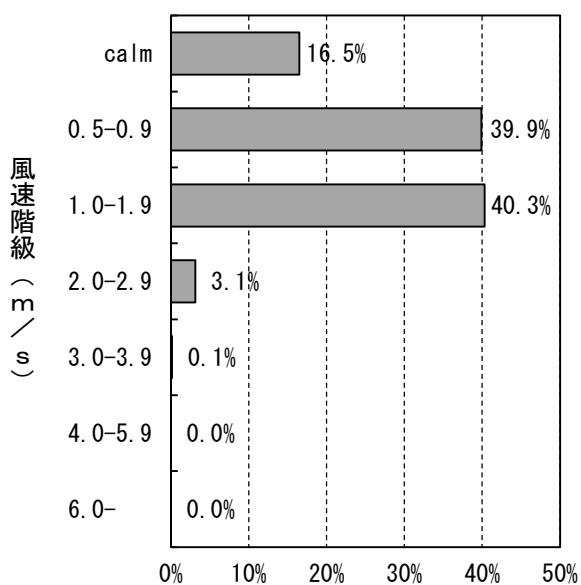


図2-3. 年間平均風速

風速	年間
calm	16.5%
0.5-0.9	39.9%
1.0-1.9	40.3%
2.0-2.9	3.1%
3.0-3.9	0.1%
4.0-5.9	0.0%
6.0-	0.0%
平均風速 (m/s)	0.9

(St. 1 諏訪湖周CC)

イ. St. 2: 樋沢地区

St. 2で測定した地上気象の年間風配図を図2-4に、年間平均風速を図2-5に示す。

年間の風配は、calm 17.9%が最も多く、次いで南の風13.1%、南西の風9.2%が続いていた。

年間の平均風速は、1.2m/sであり、表2-10(P.2-7)に示す「ビューフォートの風力階級表」の階級1の至軽風に属していた。

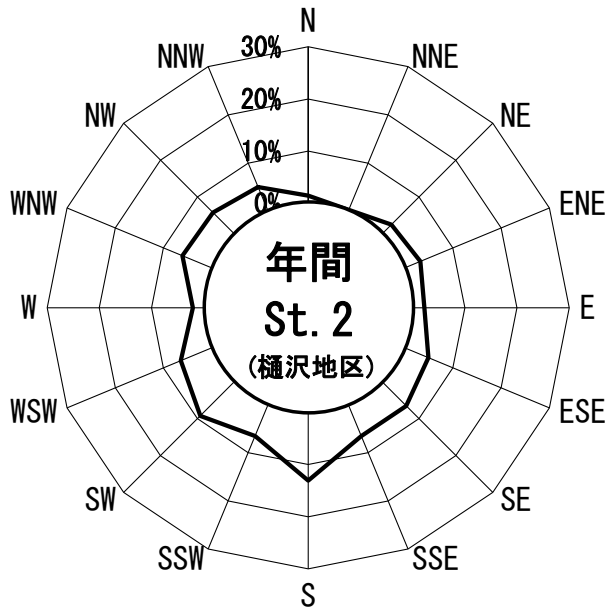


図2-4. 地上気象の年間風配図

風向	年間
calm	17.9%
N	1.5%
NNE	0.3%
NE	2.5%
ENE	3.3%
E	2.2%
ESE (施設の風下側)	4.9%
SE	6.5%
SSE	6.5%
S	13.1%
SSW	6.5%
SW	9.2%
WSW	6.4%
W	2.1%
WNW	6.1%
NW	5.8%
NNW	5.1%

(St. 2 樋沢地区)

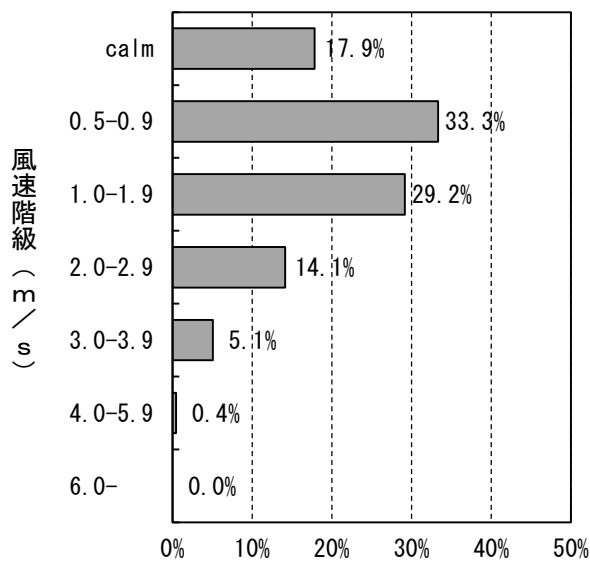


図2-5. 年間平均風速

風速	年間
calm	17.9%
0.5-0.9	33.3%
1.0-1.9	29.2%
2.0-2.9	14.1%
3.0-3.9	5.1%
4.0-5.9	0.4%
6.0-	0.0%
平均風速 (m/s)	1.2

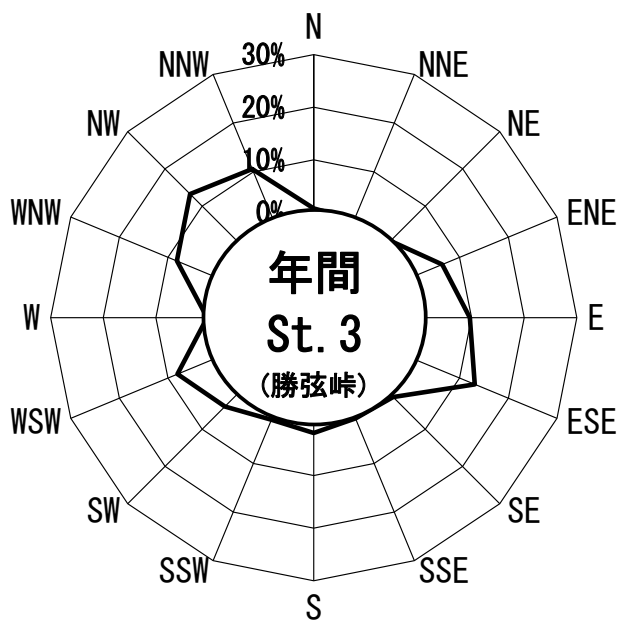
(St. 2 樋沢地区)

ウ. St. 3:勝弦峠

St. 3で測定した地上気象の年間風配図を図2-6に、年間平均風速を図2-7に示す。

年間の風配は、calm 20.1%が最も多く、次いで北西の風13.2%、東南東の風13.1%が続いていた。

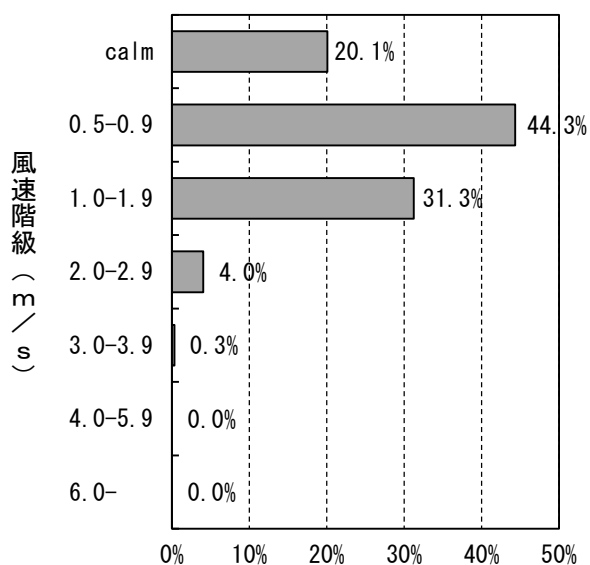
年間の平均風速は、0.9m/sであり、表2-10(P.2-7)に示す「ビューフォートの風力階級表」の階級1の至軽風に属していた。



風向	年間
calm	20.1%
N	0.7%
NNE	0.1%
NE	0.6%
ENE	6.4%
E	9.7%
ESE	13.1%
SE (施設の風下側)	1.3%
SSE	0.7%
S	1.9%
SSW	1.0%
SW	3.9%
WSW	8.0%
W	0.3%
WNW	8.2%
NW	13.2%
NNW	10.6%

図2-6. 地上気象の年間風配図

(St. 3 勝弦峠)



風速	年間
calm	20.1%
0.5-0.9	44.3%
1.0-1.9	31.3%
2.0-2.9	4.0%
3.0-3.9	0.3%
4.0-5.9	0.0%
6.0-	0.0%
平均風速 (m/s)	0.9

図2-7. 年間平均風速

(St. 3 勝弦峠)

エ. St. 4: 岡谷市役所

St. 4で測定した地上気象の年間風配図を図2-8に、年間平均風速を図2-9に示す。

年間の風配は、calm 18.0%が最も多く、次いで南西の風13.1%、北北西の風11.5%が続いていた。

年間の平均風速は、1.5 m/sであり、表2-10(P.2-7)に示す「ビューフォートの風力階級表」の階級1の至軽風に属していた。

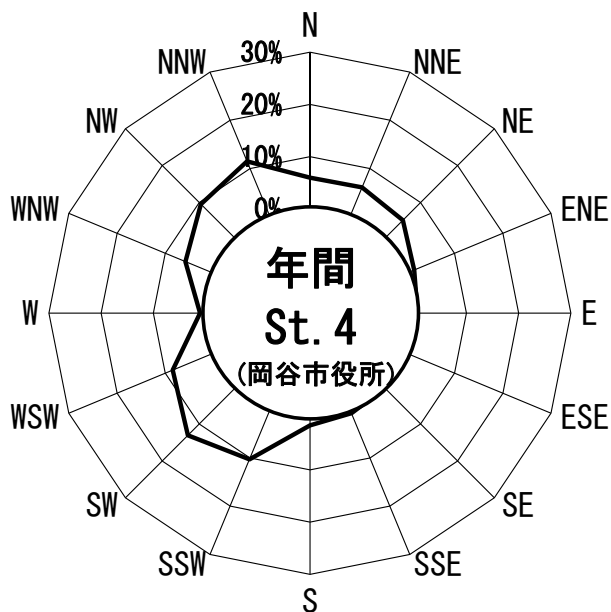


図2-8. 地上気象の年間風配図

風向	年間
calm	18.0%
N	6.0%
NNE	6.1%
NE	5.2%
ENE	1.6%
E	0.6%
ESE	0.3%
SE	0.3%
SSE	0.7%
S	1.5%
SSW	10.3%
SW	13.1%
WSW	8.5%
W (施設の風下側)	1.0%
WNW	5.8%
NW	9.5%
NNW	11.5%

(St. 4 岡谷市役所)

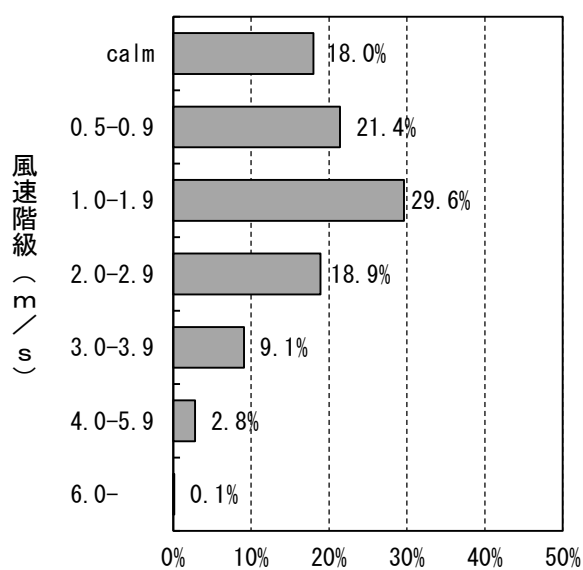


図2-9. 年間平均風速

風速	年間
calm	18.0%
0.5-0.9	21.4%
1.0-1.9	29.6%
2.0-2.9	18.9%
3.0-3.9	9.1%
4.0-5.9	2.8%
6.0-	0.1%
平均風速 (m/s)	1.5

(St. 4 岡谷市役所)

(2) 大気質

① 二酸化硫黄

各調査地点における事後調査結果(二酸化硫黄)を表2-11に示す。

表2-11. 各調査地点における事後調査結果〔二酸化硫黄、単位：ppm〕

番号	項目	調査地点名等	1時間値 ^{*1}	1日平均値 ^{*2}	年平均値 ^{*3}
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	0.000～0.004	0.000～0.003	0.001
		St. 2 樋沢地区	0.000～0.005	0.000～0.001	0.000
		St. 3 勝弦峠	0.000～0.003	0.000～0.002	0.001
		St. 4 岡谷市役所	0.001～0.003	0.001～0.002	0.001
ア	環境基準値	—	0.1以下	0.04以下	—
イ	評価書の結果 A. 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	0.001～0.005	0.001～0.002	0.001
		St. 2 樋沢地区	0.001～0.003	0.001～0.002	0.002
		St. 3 勝弦峠	0.001～0.006	0.001～0.003	0.002
		St. 4 岡谷市役所	0.001～0.006	0.001～0.002	0.001
	B. 予測結果 [評価(予測)]	St. 3 勝弦峠	0.0143 ^{*4}	0.007	0.0021
ウ	事後調査と同一期間中に測定された一般局	諏訪一般局	0.000～0.011	0.000～0.002	0.001

^{*1}各調査地点の1時間値は、調査期間中の各日(24時間の測定結果)の最高値の最小値～最高値を示した。

^{*2}各調査地点の1日平均値は、調査期間中の各日(24時間の測定結果)の算術平均値の最小値～最高値を示した。

^{*3}年平均値は、欠測を除く四季分の全ての1時間値を合計した値を測定時間総数で割って求めた算術平均値とした。

^{*4}1時間値の高濃度の評価(予測)のうち、最も濃度が高い条件下での濃度を引用した。

事後調査結果を以下の3つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と環境基準値との比較(1時間値、1日平均値)

環境基準値と比較すると、4地点とも事後調査結果は環境基準値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較

(ア) 1時間値

A. 評価(現地)と比較すると、St. 1やSt. 2では両者は同程度、St. 3やSt. 4では事後調査結果の方が評価(現地)をやや下回っていた。

B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(イ) 1日平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(ロ) 年平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)をやや下回っていた。

ウ 事後調査と同一期間中に測定された一般局(諏訪一般局)との比較

(ア) 1時間値

一般局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局の結果を下回っていた。

(イ) 1日平均値

一般局の結果と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。

(ロ) 年平均値

一般局の結果と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる二酸化硫黄濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

② 二酸化窒素

各調査地点における事後調査結果(二酸化窒素)を表2-12に示す。

表2-12. 各調査地点における事後調査結果 [二酸化窒素、単位：ppm]

番号	項目	調査地点名等	1時間値 ^{※1}	1日平均値 ^{※2}	年平均値 ^{※3}
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	0.003 ~0.020	0.001 ~0.007	0.004
		St. 2 樋沢地区	0.003 ~0.012	0.001 ~0.005	0.003
		St. 3 勝弦峠	0.000 ~0.009	0.000 ~0.004	0.002
		St. 4 岡谷市役所	0.000 ~0.020	0.000 ~0.008	0.004
ア	環境基準値	—	—	0.04~0.06以下	—
イ	評価書の結果 A. 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	0.004 ~0.028	0.003 ~0.009	0.006
		St. 2 樋沢地区	0.003 ~0.025	0.002 ~0.008	0.005
		St. 3 勝弦峠	0.005 ~0.026	0.002 ~0.009	0.005
		St. 4 岡谷市役所	0.011 ~0.054	0.005 ~0.032	0.014
	B. 予測結果 [評価(予測)]	St. 3 勝弦峠	0.0867 ^{※4}	0.030	0.0142
ウ	事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局	諏訪一般局	0.004 ~0.039	0.002 ~0.027	0.007
		岡谷IC自排局	0.013 ~0.065	0.007 ~0.026	0.015

備考) ※1~※4は、表2-11(前頁)と同様。

事後調査結果を以下の3つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と環境基準値との比較(1日平均値)

環境基準値と比較すると、4地点とも事後調査結果は環境基準値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較

(ア) 1時間値

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(イ) 1日平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(ロ) 年平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)をやや下回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

ウ 事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局(岡谷IC自排局)との比較

(ア) 1時間値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果を下回っていた。

(イ) 1日平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果を下回っていた。

(ロ) 年平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果をやや下回っていた。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる二酸化窒素濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

③ 浮遊粒子状物質

各調査地点における事後調査結果(浮遊粒子状物質)を表2-13に示す。

表2-13. 各調査地点における事後調査結果〔浮遊粒子状物質、単位：mg/m³〕

番号	項目	調査地点名等	1時間値 ^{*1}	1日平均値 ^{*2}	年平均値 ^{*3}
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	0.006 ~0.061	0.003 ~0.024	0.013
		St. 2 樋沢地区	0.007 ~0.053	0.002 ~0.023	0.013
		St. 3 勝弦峠	0.008 ~0.035	0.002 ~0.018	0.009
		St. 4 岡谷市役所	0.010 ~0.054	0.003 ~0.022	0.012
ア	環境基準値	—	0.20以下	0.10以下	—
イ	評価書の結果 A. 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	0.011 ~0.060	0.004 ~0.026	0.012
		St. 2 樋沢地区	0.010 ~0.052	0.002 ~0.023	0.012
		St. 3 勝弦峠	0.010 ~0.044	0.003 ~0.023	0.013
		St. 4 岡谷市役所	0.012 ~0.043	0.003 ~0.025	0.012
	B. 予測結果 [評価(予測)]	St. 3 勝弦峠	0.0628 ^{*4}	0.036	0.01303
ウ	事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局	諏訪一般局	0.009 ~0.039	0.003 ~0.022	0.011
		岡谷IC自排局	0.008 ~0.033	0.003 ~0.021	0.011

備考) *1~*4は、表2-11(P. 2-12)と同様。

事後調査結果を以下の3つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と環境基準値との比較(1時間値、1日平均値)

環境基準値と比較すると、4地点とも事後調査結果は環境基準値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較

(ア) 1時間値

- A. 評価(現地)と比較すると、St. 1やSt. 2では両者は同程度、St. 3では事後調査結果の方が評価(現地)を下回り、St. 4では事後調査結果の方が評価(現地)を上回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(イ) 1日平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、St. 1やSt. 2では両者は同程度、St. 3やSt. 4では事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

(ウ) 年平均値

- A. 評価(現地)と比較すると、St. 3の事後調査結果は評価(現地)をやや下回っていたが、それ以外の3地点では両者は同程度であった。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

ウ 事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局との比較

(ア) 1時間値

一般局・自排局の結果と比較すると、St. 3では両者は同程度であったが、それ以外の3地点では事後調査結果の方が一般局・自排局の結果を上回っていた。

(イ) 1日平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。

(ウ) 年平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも両者は同程度であった。

St. 3(勝弦峠)以外の3地点において、事後調査結果の1時間値は一般局・自排局の結果を上回っていたが、1日平均値や年平均値は同程度であった。また、新ごみ処理施設の供用前後の現地調査結果の年平均値を比較すると、最大着地濃度地点と予測されたSt. 3の濃度に改善傾向がみられている。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる浮遊粒子状物質濃度ではないと考えられ、大気質への影響は小さいものと判断した。

④ 微小粒子状物質

各調査地点における事後調査結果(微小粒子状物質)を表2-14に示す。

表2-14. 各調査地点における事後調査結果〔微小粒子状物質、単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 〕

番号	項目	調査地点名等	1時間値 ^{※1}	1日平均値 ^{※2}	年平均値 ^{※3}
事後調査結果	St. 1	諏訪湖周CC	2～36	1～15	8
	St. 2	樋沢地区	5～40	3～21	9
	St. 3	勝弦峠	3～35	1～19	9
	St. 4	岡谷市役所	3～44	1～25	10
ア	環境基準値	—	—	35以下	15以下
イ	事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局	諏訪一般局	6～27	-1～16	6
		岡谷IC自排局	4～22	0～12	5

備考) ※1～※3は、表2-11(P. 2-12)と同様。

事後調査結果を以下の2つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と環境基準値との比較(1日平均値、年平均値)

環境基準値と比較すると、4地点とも事後調査結果は環境基準値を下回っていた。

イ 事後調査と同一期間中に測定された一般局・自排局との比較

(ア) 1時間値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果を上回っていた。

(イ) 1日平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、St. 1やSt. 3では両者は同程度、St. 2やSt. 4では事後調査結果の方が一般局・自排局の結果をやや上回っていた。

(ウ) 年平均値

一般局・自排局の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果をやや上回っていた。

全ての地点の年平均値において、事後調査結果の方が一般局・自排局の結果をやや上回っているが、各地点の調査期間中の経時変化をみると、時間帯・日間・四季の濃度(グラフの波形)が非周期的に、かつ、大きく変動していることから、施設以外の外的な要因(例：刈草や農作残渣の野焼き等)が原因として考えられる。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる微小粒子状物質濃度ではないと考えられ、大気質への影響は小さいものと判断した。

⑤ 塩化水素

各調査地点における事後調査結果(塩化水素)を表2-15に示す。

表2-15. 各調査地点における事後調査結果 [塩化水素、単位：ppm]

番号	項目	調査地点名等	1時間値	調査結果 ^{※1} (各季3日)	年平均値
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	—	0.0001未満 ~ 0.0002	0.0001
		St. 2 樋沢地区	—	0.0001未満 ~ 0.0001	0.0001
		St. 3 勝弦峠	—	0.0001未満 ~ 0.0001	0.0001
		St. 4 岡谷市役所	—	0.0001未満 ~ 0.0002	0.0001
ア	目標環境濃度値	—	—	—	0.02以下
イ	評価書の結果 A. 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	—	0.0001 ~ 0.0012	0.0005
		St. 2 樋沢地区	—	0.0001未満 ~ 0.0010	0.0004
		St. 3 勝弦峠	—	0.0001未満 ~ 0.0009	0.0003
		St. 4 岡谷市役所	—	0.0001未満 ~ 0.0009	0.0003
	B. 予測結果 [評価(予測)]	St. 3 勝弦峠	0.0143 ^{※2}	—	—

^{※1}調査期間中の各日の測定結果(24時間累積値)の最小値～最高値を示した。

^{※2}表2-11(P. 2-12)の^{※4}と同様。

事後調査結果を以下の2つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と目標環境濃度値との比較(年平均値)

目標環境濃度値と比較すると、4地点とも事後調査結果は目標環境濃度値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較(年平均値)

A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる塩化水素濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

⑥ ダイオキシン類

各調査地点における事後調査結果(ダイオキシン類)を表2-16に示す。

表2-16. 各調査地点における事後調査結果 [ダイオキシン類、単位：pg-TEQ/m³]

番号	項目	調査地点名等	調査結果(各季7日) ^{*1}	年平均値
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	0.0038~0.0060	0.0046
		St. 2 樋沢地区	0.0040~0.0057	0.0047
		St. 3 勝弦峠	0.0035~0.0041	0.0037
		St. 4 岡谷市役所	0.0044~0.0060	0.0053
ア	環境基準値	—	—	0.6以下
イ	評価書の結果 A. 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	0.0041~0.018	0.0092
		St. 2 樋沢地区	0.0044~0.0081	0.0056
		St. 3 勝弦峠	0.0043~0.0054	0.0046
		St. 4 岡谷市役所	0.0060~0.020	0.012
	B. 予測結果 [評価(予測)]	St. 3 勝弦峠	—	0.0123
ウ	県内の調査地点 ^{*2} (直近5年間)	一般環境 (環境の一般的状況)	—	0.0066 ~0.026
		発生源周辺(主要な発 生源となる施設の周辺)	—	0.0085 ~0.64

^{*1}表2-15(前頁)の^{*1}と同様。

^{*2}県内の調査地点のダイオキシン類濃度は、長野県内の一般環境及び発生源周辺の直近5年間の最低値~最高値(検体総数235)を用いた。

「平成23年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果 平成25年3月 環境省」

「平成24年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果 平成26年3月 環境省」

「平成25年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果 平成27年3月 環境省」

「平成26年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果 平成28年3月 環境省」

「平成27年度 ダイオキシン類に係る環境調査結果 平成29年3月 環境省」

事後調査結果を以下の3つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と環境基準値との比較(年平均値)

環境基準値と比較すると、4地点とも事後調査結果は環境基準値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較(年平均値)

- A. 評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。
- B. 評価(予測)の[St. 3]と比較すると、事後調査結果[St. 3]の方が評価(予測)を下回っていた。

ウ 事後調査と長野県内の調査地点の結果(直近5年間)との比較(年平均値)

長野県内の調査地点の結果と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が長野県内の調査地点の結果を下回っていた。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できるダイオキシン類濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

⑦ カドミウム及びその化合物

各調査地点における事後調査結果(カドミウム及びその化合物)を表2-17に示す。

表2-17. 各調査地点における事後調査結果 [カドミウム、単位：ng/m³]

番号	項目		調査地点名等		調査結果(各季7日)*	年平均値
事後調査結果	St. 1	諏訪湖周CC			0.011未満 ~0.071	0.028
	St. 2	樋沢地区			0.011未満 ~0.080	0.032
	St. 3	勝弦峠			0.011未満 ~0.078	0.029
	St. 4	岡谷市役所			0.011未満 ~0.15	0.033
ア	許容限界値		—		—	10,000以下
イ	評価書の結果	現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1	諏訪湖周CC	0.011 ~0.67	0.15
			St. 2	樋沢地区	0.008 ~0.60	0.15
			St. 3	勝弦峠	0.014 ~0.65	0.17
			St. 4	岡谷市役所	0.044 ~0.69	0.21

*表2-15(P. 2-19)の*1と同様。

事後調査結果を以下の2つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と許容限界値との比較(年平均値)

許容限界値と比較すると、4地点とも事後調査結果は許容限界値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較(年平均値)

評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できるカドミウム及びその化合物濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

⑧ 水銀

各調査地点における事後調査結果(水銀)を表2-18に示す。

表2-18. 各調査地点における事後調査結果 [水銀、単位：ng/m³]

番号	項目	調査地点名等	調査結果(各季7日)*	年平均値
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	1.2 ~2.5	1.9
		St. 2 樋沢地区	0.7 ~2.7	1.8
		St. 3 勝弦峠	1.1 ~3.1	2.0
		St. 4 岡谷市役所	1.3 ~5.0	2.4
ア	指針値	—	—	40以下
イ	評価書の結果 現地調査結果 [評価(現地)]	St. 1 諏訪湖周CC	0.3未満 ~2.0	1.2
		St. 2 樋沢地区	0.3未満 ~2.0	1.2
		St. 3 勝弦峠	0.3未満 ~2.0	1.4
		St. 4 岡谷市役所	0.3未満 ~2.1	1.4

*表2-15(P. 2-19)の*1と同様。

事後調査結果を以下の2つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と指針値との比較(年平均値)

指針値と比較すると、4地点とも事後調査結果は指針値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較(年平均値)

評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)をやや上回っていたことから、本濃度がどの程度の濃度レベルなのか、また、調査期間中の施設の排ガス中の水銀濃度の状況について、調査した。

環境省「平成27年度 大気汚染状況について(有害大気汚染物質モニタリング調査結果報告)」によると、平成27年度における全国の水銀の測定結果のうち、一般環境*¹では0.91~3.7ng/m³(年平均値1.9ng/m³)、固定発生源周辺*²では1.2~3.6ng/m³(年平均値2.1ng/m³)であった。これらの値は、事後調査結果と同程度であった。

また、施設の排ガス中の水銀濃度をみると、事後調査期間中(酸素濃度12%換算値)*³の結果は、1号炉では0~0.001mg/Nm³、2号炉では0~0.013mg/Nm³であった。また、定期検査(年1回実施、酸素濃度12%換算値)結果では、1号炉では0.004未満mg/Nm³、2号炉では0.004未満mg/Nm³であった。これらの測定値は、全て自主保証値の0.050mg/Nm³を下回る結果となっており、施設の環境保全措置により、大気質への影響は、実行可能な範囲で緩和され、環境保全についての配慮が適正に行われているものと判断した。

(続く)

(前頁からの続き)

したがって、新ごみ処理施設の稼働による大気質の影響は小さいものと判断した。

※¹ 固定発生源や自動車による直接的な影響が及びにくい地点、H27地点数：202地点、検体数：2,424検体

※² 事業所等の近傍の地点、H27地点数：21地点、検体数：252検体

※³ 「平成28年度運転年報」の結果〔調査期間中の各日(4時間平均の最高値)の最小値～最大値〕

以上より、全ての調査地点において、施設の環境保全措置により、大気質への影響は、実行可能な範囲で緩和され、環境保全についての配慮が適正に行われており、全国レベルと同等レベル濃度を保持していることから、大気質への影響は小さいものと判断した。

⑨ 鉛及びその化合物

各調査地点における事後調査結果(鉛及びその化合物)を表2-19に示す。

表2-19. 各調査地点における事後調査結果 [鉛、単位：ng/m³]

番号	項目	調査地点名等	調査結果(各季7日)*	年平均値
事後調査結果		St. 1 諏訪湖周CC	0.021 ~ 2.8	0.48
		St. 2 樋沢地区	0.029 ~ 2.9	0.53
		St. 3 勝弦峠	0.016 ~ 2.8	0.46
		St. 4 岡谷市役所	0.026 ~ 2.7	0.59
ア	管理濃度値	—	—	50,000以下
イ	現地調査結果 [評価(現地)] の評価書の結果	St. 1 諏訪湖周CC	0.4 ~ 27.4	6.8
		St. 2 樋沢地区	0.7 ~ 25.5	6.1
		St. 3 勝弦峠	0.8 ~ 28.3	6.9
		St. 4 岡谷市役所	0.9 ~ 24.1	8.9

*表2-15(P. 2-19)の*1と同様とする。

事後調査結果を以下の2つの観点から比較検討を行った上で、考察した。

ア 事後調査結果と管理濃度値との比較(年平均値)

管理濃度値と比較すると、4地点とも事後調査結果は管理濃度値を下回っていた。

イ 事後調査結果と評価書の結果との比較(年平均値)

評価(現地)と比較すると、4地点とも事後調査結果の方が評価(現地)を下回っていた。

以上より、全ての調査地点において、新ごみ処理施設の稼働による影響を明確に確認できる鉛及びその化合物濃度ではないことから、大気質への影響は小さいものと判断した。

(3) 考察及び評価

① 考察

ア. 環境基準値との比較〔1時間値の最高値、1日平均値の最高値、年平均値〕

環境基準値が設定されている物質において、事後調査結果と環境基準値の比較を行った。

事後調査結果と環境基準の比較表（1時間値の最高値）を表2-20に、事後調査結果と環境基準の比較表（1日平均値の最高値）を表2-21に、事後調査結果と環境基準の比較表（年平均値）を表2-22に示す。

事後調査結果は、全ての大気質の調査項目において環境基準値を下回っており、かつ、環境基準値と比べて十分に低い濃度であった。

したがって、新ごみ処理施設の稼働による大気質の影響は小さいものと判断した。

表2-20. 事後調査結果と環境基準の比較表（1時間値の最高値）

調査項目	環境基準値	St. 1 (諏訪湖周CC)		St. 2 (樋沢地区)		St. 3 (勝弦峠)		St. 4 (岡谷市役所)	
		事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)
二酸化硫黄 (ppm)	0.1	0.004	○	0.005	○	0.003	○	0.003	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.20	0.061	○	0.053	○	0.035	○	0.054	○

表2-21. 事後調査結果と環境基準の比較表（1日平均値の最高値）

調査項目	環境基準値	St. 1 (諏訪湖周CC)		St. 2 (樋沢地区)		St. 3 (勝弦峠)		St. 4 (岡谷市役所)	
		事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)
二酸化硫黄 (ppm)	0.04	0.003	○	0.001	○	0.002	○	0.002	○
二酸化窒素 (ppm)	0.04~0.06	0.007	○	0.005	○	0.004	○	0.008	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.10	0.024	○	0.023	○	0.018	○	0.022	○
微小粒子状物質 (μg/m ³)	35	15	○	21	○	19	○	25	○

表2-22. 事後調査結果と環境基準の比較表（年平均値）

調査項目	環境基準値	St. 1 (諏訪湖周CC)		St. 2 (樋沢地区)		St. 3 (勝弦峠)		St. 4 (岡谷市役所)	
		事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)	事後調査	評価 適(O), 否(X)
微小粒子状物質 (μg/m ³)	15	8	○	9	○	9	○	10	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.6	0.0046	○	0.0047	○	0.0037	○	0.0053	○

イ. 評価(現地)との比較〔年平均値〕

事後調査結果と評価(現地)の比較表を表2-23に示す。

年平均値について、事後調査結果を評価(現地)と比較すると、ほとんどの調査項目において事後調査結果は評価(現地)を下回っていた。

事後調査結果が評価(現地)を下回った理由として、新ごみ処理施設の排ガス濃度(自主保証値)*が、旧岡谷清掃工場よりも厳しい値として設定しており、大気環境が改善していることが要因の一つとして考えられる。

したがって、新ごみ処理施設の稼働による大気質の影響は小さいものと判断した。

*新ごみ処理施設及び旧岡谷清掃工場の排ガス濃度等は、以下のとおり。

項目	旧岡谷清掃工場		新ごみ処理施設		
	法規制値	自主保証値	法規制値	自主保証値	
設定根拠	—	・ばいじんは、法規制値より厳しい自主保証値を設定 ・その他の項目は、法規制値を遵守	—	全ての項目で法規制値より厳しい自主保証値を設定	
排ガス濃度	ばいじん	0.08g/Nm ³ 以下	0.05g/Nm ³	0.04g/Nm ³ 以下	0.007g/Nm ³ 以下
	硫黄酸化物	K値 14.5	同左	K値 14.5	25ppm以下
	窒素酸化物	250ppm以下	同左	250ppm以下	90ppm以下
	塩化水素	700mg/Nm ³ (430ppm)以下	同左	700mg/Nm ³ (430ppm)以下	40ppm以下
	ダイオキシン類	1ng-TEQ/Nm ³ 以下	同左	0.1ng-TEQ/Nm ³ 以下	0.05ng-TEQ/Nm ³ 以下

(備考) 排ガス濃度は、乾き排ガス量における酸素濃度12%換算値である。

表2-23. 事後調査結果と評価(現地)の比較表(年平均値)

調査項目	環境基準値 または[指針値]	St. 1 (諏訪湖周CC)		St. 2 (樋沢地区)		St. 3 (勝弦峠)		St. 4 (岡谷市役所)	
		事後調査	評価(現地)	事後調査	評価(現地)	事後調査	評価(現地)	事後調査	評価(現地)
二酸化硫黄 (ppm)	—	0.001	0.001	0.000 ↓	0.002	0.001 ↓	0.002	0.001	0.001
二酸化窒素 (ppm)	[0.02~0.03]	0.004 ↓	0.006	0.003 ↓	0.005	0.002 ↓	0.005	0.004 ↓	0.014
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	—	0.013 ↑	0.012	0.013 ↑	0.012	0.009 ↓	0.013	0.012	0.012
微小粒子状物質 (μg/m ³)	15	8	—	9	—	9	—	10	—
塩化水素 (ppm)	[0.02]	0.0001 ↓	0.0005	0.0001 ↓	0.0004	0.0001 ↓	0.0003	0.0001 ↓	0.0003
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.6	0.0046 ↓	0.0092	0.0047 ↓	0.0056	0.0037 ↓	0.0046	0.0053 ↓	0.012
カドミウム及びその化合物 (ng/m ³)	[10,000]	0.028 ↓	0.15	0.032 ↓	0.15	0.029 ↓	0.17	0.033 ↓	0.21
水銀 (ng/m ³)	[40]	1.9 ↑	1.2	1.8 ↑	1.2	2.0 ↑	1.4	2.4 ↑	1.4
鉛及びその化合物 (ng/m ³)	[50,000]	0.48 ↓	6.8	0.53 ↓	6.1	0.46 ↓	6.9	0.59 ↓	8.9

(備考1) []: 指針値等

(備考2) ↓: 評価(現地)より事後調査結果の方が低い場合

↑: 評価(現地)より事後調査結果の方が高い場合

② 評価(予測)との比較[年平均値]

最大着地濃度地点 (St. 3 勝弦峠) における事後調査結果と評価(予測)の比較表を表2-24に示す。

年平均値について、事後調査結果を評価(予測)と比較すると、全ての調査項目において事後調査結果の方が評価(予測)を下回っていた。

事後調査結果が評価(予測)を下回った理由として、まずは評価(予測)では、危険側(環境への影響が大きくなる側)の予測とするため、大気拡散計算時の排ガス濃度に計画値を用いたことや、予測値の窒素酸化物を全て二酸化窒素に変換するといった予測条件で計算したことが挙げられる。次いで、事後調査期間中の施設の排ガス濃度(自動計測器による測定値)は、評価書当時の計画値よりも低く設定した自主保証値をさらに下回る濃度で運転していたことが挙げられる。これらの要因が加わって、事後調査結果と評価(予測)に差異がみられたものと考えられる。

したがって、新ごみ処理施設の稼働による大気質の影響は小さいものと判断した。

表2-24. 事後調査結果と評価(予測)の比較表(年平均値)

調査項目	環境基準値 または[指針値]	St. 3(勝弦峠)	
		事後調査結果	評価(予測)
二酸化硫黄 (ppm)	—	0.001 ↓	0.0021
二酸化窒素 (ppm)	[0.02~0.03]	0.002 ↓	0.0142
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	—	0.009 ↓	0.01303
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.6	0.0037 ↓	0.0123

備考1) [] : 指針値

備考2) ↓ : 評価(予測)より事後調査結果の方が低い場合

↑ : 評価(予測)より事後調査結果の方が高い場合

③ 事後調査結果と同一期間に測定された一般局・自排局の結果との比較〔年平均値〕

事後調査結果と同一期間に測定された一般局・自排局の結果の比較表を表2-25に示す。

事後調査結果と一般局・自排局の結果（ダイオキシン類は直近5年間の県内の調査地点の結果）と比較すると、4地点とも二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質では同程度であった。また、二酸化窒素及びダイオキシン類では、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果を下回っていた。一方、微小粒子状物質では、4地点とも事後調査結果の方が一般局・自排局の結果をやや上回っていた。

全体的にみると、事後調査結果の各調査項目の濃度は、一般局と同程度であることから、各調査地点の大気環境は一般局と同等の状態を維持しているものと判断した。

したがって、新ごみ処理施設の稼働による大気質の影響は小さいものと判断した。

表2-25. 事後調査結果と同一期間に測定された一般局・自排局の結果の比較表(年平均値)

調査項目	環境基準値 または[指針値]	事後調査結果				一般局 自排局
		St. 1 (諏訪湖周CC)	St. 2 (樋沢地区)	St. 3 (勝弦峠)	St. 4 (岡谷市役所)	
二酸化硫黄 (ppm)	—	0.001	0.000 ↓	0.001	0.001	0.001
二酸化窒素 (ppm)	[0.02~0.03]	0.004 ↓	0.003 ↓	0.002 ↓	0.004 ↓	0.007 0.015
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	—	0.013 ↑	0.013 ↑	0.009 ↓	0.012 ↑	0.011 0.011
微小粒子状物質 (μg/m ³)	15	8 ↑	9 ↑	9 ↑	10 ↑	6 5
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.6	0.0046 ↓	0.0047 ↓	0.0037 ↓	0.0053 ↓	0.0066~0.026** 0.0085~0.64**

※2段書きのうち、上段は直近5年間の県内の一般環境の結果を、下段は直近5年間の県内の発生源周辺の結果を示す。

備考1) []: 指針値

備考2) ↓: 一般局・自排局の結果より事後調査結果の方が低い場合

↑: 一般局・自排局の結果より事後調査結果の方が高い場合

備考3) 一般局・自排局の各調査項目の2段書きのうち、上段は一般局の結果を、下段は自排局の結果を示す。

④ 評価

各比較対象項目に対する評価を表2-26に示す。

大気質の事後調査の結果、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、カドミウム及びその化合物、鉛及びその化合物、水銀について施設の影響の有無を検討したが、全ての調査項目において、施設の稼動による影響が確認できる濃度ではないことから、周辺環境へ与える影響は小さいと評価した。

表2-26. 各比較対象項目に対する評価

調査項目	事後調査結果			
	環境基準値との比較	評価書との比較		事後調査と同一期間に測定された一般局・自排局の結果との比較
		現地調査	予測結果	
二酸化硫黄	○	○	○	○
二酸化窒素	○	○	○	○
浮遊粒子状物質	○	○	○	○
微小粒子状物質	○			○
塩化水素	○	○		
ダイオキシン類	○	○	○	
カドミウム及びその化合物	○	○		
水銀	○	○		
鉛及びその化合物	○	○		

備考) 評価 ○：事後調査の結果により、施設の稼動による影響が小さいと評価できるもの

×：事後調査の結果により、施設の稼動による影響が大きいと評価されるもの

資料編

資料1 大気質の事後調査結果

1. 二酸化硫黄

二酸化硫黄の事後調査結果と環境基準値との適合状況を表1-1～表1-4(P. 1-4)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で環境基準の1時間値(0.1ppm以下)及び1日平均値(0.04ppm以下)を下回っていた。

表1-1. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化硫黄 St. 1)

調査地点	調査時期		1時間値 ^{※1}		1日平均値 ^{※1}		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.1ppm以下		0.04ppm以下		—
St. 1 諏訪湖周CC	冬季	H29. 2. 1(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 5(日)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.000	○	0.000	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.003	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.003	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.004	○	0.002	○	0.000
		H29. 4. 15(土)	0.004	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 16(日)	0.003	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 17(月)	0.004	○	0.002	○	0.000
		H29. 4. 18(火)	0.003	○	0.002	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7. 27(木)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7. 28(金)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7. 29(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7. 30(日)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.002	○	0.000	○	0.000
		H29. 8. 1(火)	0.001	○	0.000	○	0.000
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 5(木)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 6(金)	0.002	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 7(土)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 8(日)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 9(月)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 10(火)	0.004	○	0.003	○	0.002
年 間		0.004 (最高)	○	0.001 (年平均^{※2})	○	0.000 (最低)	

備考1) 1日24時間測定(毎正時測定)

備考2) 評価 [○: 環境基準値以下 ×: 環境基準値を超過]

備考3) 1時間値の評価による「○」とは、1日平均値がすべて0.04ppm以下であり、かつ1時間値がすべての測定時間において0.1ppm以下であることをいう。

備考4) 1日平均値の評価による「○」とは、1日平均値が0.04 ppm以下であることをいう。

※1各調査日の1時間値は24時間の測定結果(データ数: 24)の最高値、1日平均値は24時間の測定結果の算術平均値とした。

※2年平均値は、欠測を除く四季すべての1時間値を合計した値を測定時間総数で割って求めた算術平均値とした。

表1-2. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化硫黄 St. 2)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.1ppm以下		0.04ppm以下		—
St. 2 樋沢地区	冬季	H29. 2. 1(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 5(日)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.001	○	0.000	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 15(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4. 16(日)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 4. 17(月)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4. 18(火)	0.001	○	0.000	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 27(木)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 29(土)	0.001	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 30(日)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 8. 1(火)	0.001	○	0.001	○	0.001
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 10. 5(木)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 10. 6(金)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 10. 7(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 10. 8(日)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.003	○	0.001	○	0.000
		H29. 10. 10(火)	0.005	○	0.001	○	0.000
年 間		0.005 (最高)	○	0.000 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-3. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化硫黄 St. 3)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.1ppm以下		0.04ppm以下		—
St. 3 勝 弦 峠	冬季	H29. 2. 1(水)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 2. 2(木)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 3(金)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 2. 4(土)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 2. 5(日)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 6(月)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 2. 7(火)	0.002	○	0.001	○	0.001
	春季	H29. 4.12(水)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4.13(木)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 4.14(金)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 4.15(土)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 4.16(日)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 4.17(月)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 4.18(火)	0.002	○	0.001	○	0.000
	夏季	H29. 7.26(水)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 7.27(木)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7.28(金)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7.29(土)	0.001	○	0.000	○	0.000
		H29. 7.30(日)	0.000	○	0.000	○	0.000
		H29. 7.31(月)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 8. 1(火)	0.001	○	0.000	○	0.000
	秋季	H29.10. 4(水)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29.10. 5(木)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29.10. 6(金)	0.001	○	0.001	○	0.001
		H29.10. 7(土)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29.10. 8(日)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29.10. 9(月)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29.10.10(火)	0.003	○	0.001	○	0.001
年 間		0.003 (最高)	○	0.001 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-4. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化硫黄 St. 4)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.1ppm以下		0.04ppm以下		—
St. 4 岡谷市役所	冬季	H29. 2. 1(水)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 2(木)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 3(金)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 4(土)	0.001	○	0.001	○	0.001
		H29. 2. 5(日)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.002	○	0.001	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.001	○	0.001	○	0.001
	春季	H29. 4. 12(水)	0.001	○	0.001	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 4. 14(金)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 4. 15(土)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 4. 16(日)	0.001	○	0.001	○	0.001
		H29. 4. 17(月)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 4. 18(火)	0.001	○	0.001	○	0.001
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 27(木)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 7. 29(土)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 7. 30(日)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 7. 31(月)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 8. 1(火)	0.002	○	0.002	○	0.001
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.002	○	0.001	○	0.001
		H29. 10. 5(木)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 10. 6(金)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 10. 7(土)	0.002	○	0.002	○	0.001
		H29. 10. 8(日)	0.003	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 9(月)	0.002	○	0.002	○	0.002
		H29. 10. 10(火)	0.002	○	0.002	○	0.002
年 間		0.003 (最高)	○	0.001 (年平均)	○	0.000 (最低)	

2. 二酸化窒素

二酸化窒素の事後調査結果と環境基準値との適合状況を表1-5～表1-8(P. 1-8)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で環境基準の1日平均値(0.04～0.06ppm以下)を下回っていた。

表1-5. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化窒素 St. 1)

調査地点	調査時期	1時間値		1日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		—		0.04～0.06ppm以下		—	
St. 1 諏訪湖周CC	冬季	H29. 2. 1(水)	0.010	—	0.004	○	0.001
		H29. 2. 2(木)	0.005	—	0.002	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.020	—	0.004	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.008	—	0.004	○	0.002
		H29. 2. 5(日)	0.014	—	0.007	○	0.001
		H29. 2. 6(月)	0.006	—	0.003	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.007	—	0.003	○	0.001
	春季	H29. 4. 12(水)	0.007	—	0.004	○	0.002
		H29. 4. 13(木)	0.005	—	0.002	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.020	—	0.006	○	0.002
		H29. 4. 15(土)	0.005	—	0.003	○	0.002
		H29. 4. 16(日)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 4. 17(月)	0.007	—	0.004	○	0.001
		H29. 4. 18(火)	0.005	—	0.003	○	0.001
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.005	—	0.003	○	0.001
		H29. 7. 27(木)	0.007	—	0.003	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.005	—	0.003	○	0.001
		H29. 7. 29(土)	0.005	—	0.002	○	0.001
		H29. 7. 30(日)	0.003	—	0.001	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.006	—	0.003	○	0.001
		H29. 8. 1(火)	0.006	—	0.004	○	0.002
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.009	—	0.004	○	0.002
		H29. 10. 5(木)	0.009	—	0.006	○	0.002
		H29. 10. 6(金)	0.009	—	0.006	○	0.002
		H29. 10. 7(土)	0.007	—	0.004	○	0.001
		H29. 10. 8(日)	0.005	—	0.003	○	0.001
		H29. 10. 9(月)	0.007	—	0.003	○	0.001
		H29. 10. 10(火)	0.009	—	0.005	○	0.002
年 間		0.020 (最高)	—	0.004 (年平均)	○	0.000 (最低)	

備考1) 1日24時間測定(毎正時測定)

備考2) 1日平均値の評価による「○」とは、1日平均値が0.04ppmから0.06ppmのゾーン内またはそれ以下であることをいう。

表1-6. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化窒素 St. 2)

調査地点	調査時期	1時間値		1日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		—		0.04~0.06ppm以下		—	
St. 2 樋沢地区	冬季	H29. 2. 1(水)	0.005	—	0.002	○	0.001
		H29. 2. 2(木)	0.003	—	0.001	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.005	—	0.001	○	0.001
		H29. 2. 4(土)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 2. 5(日)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 2. 6(月)	0.003	—	0.001	○	0.001
		H29. 2. 7(火)	0.004	—	0.001	○	0.001
	春季	H29. 4. 12(水)	0.012	—	0.005	○	0.003
		H29. 4. 13(木)	0.006	—	0.002	○	0.001
		H29. 4. 14(金)	0.005	—	0.003	○	0.002
		H29. 4. 15(土)	0.004	—	0.003	○	0.002
		H29. 4. 16(日)	0.004	—	0.003	○	0.001
		H29. 4. 17(月)	0.005	—	0.004	○	0.002
		H29. 4. 18(火)	0.006	—	0.003	○	0.002
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.005	—	0.004	○	0.002
		H29. 7. 27(木)	0.006	—	0.004	○	0.002
		H29. 7. 28(金)	0.006	—	0.004	○	0.002
		H29. 7. 29(土)	0.006	—	0.003	○	0.002
		H29. 7. 30(日)	0.004	—	0.003	○	0.001
		H29. 7. 31(月)	0.004	—	0.003	○	0.002
		H29. 8. 1(火)	0.007	—	0.005	○	0.003
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.008	—	0.003	○	0.001
		H29. 10. 5(木)	0.007	—	0.005	○	0.001
		H29. 10. 6(金)	0.007	—	0.005	○	0.002
		H29. 10. 7(土)	0.007	—	0.004	○	0.002
		H29. 10. 8(日)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 10. 9(月)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 10. 10(火)	0.005	—	0.003	○	0.001
年 間		0.012 (最高)	—	0.003 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-7. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化窒素 St. 3)

調査地点	調査時期	1 時間値		1 日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		—		0.04~0.06ppm以下		—	
St. 3 勝 弦 峠	冬季	H29. 2. 1(水)	0.002	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.001	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.000	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.002	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 5(日)	0.003	—	0.001	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.001	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.001	—	0.000	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.008	—	0.004	○	0.002
		H29. 4. 13(木)	0.005	—	0.002	○	0.001
		H29. 4. 14(金)	0.007	—	0.003	○	0.002
		H29. 4. 15(土)	0.005	—	0.002	○	0.001
		H29. 4. 16(日)	0.004	—	0.002	○	0.001
		H29. 4. 17(月)	0.009	—	0.004	○	0.002
		H29. 4. 18(火)	0.005	—	0.003	○	0.001
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.004	—	0.003	○	0.002
		H29. 7. 27(木)	0.006	—	0.003	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.006	—	0.003	○	0.002
		H29. 7. 29(土)	0.005	—	0.003	○	0.002
		H29. 7. 30(日)	0.003	—	0.002	○	0.001
		H29. 7. 31(月)	0.003	—	0.002	○	0.002
		H29. 8. 1(火)	0.007	—	0.004	○	0.002
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.007	—	0.002	○	0.001
		H29. 10. 5(木)	0.007	—	0.004	○	0.001
		H29. 10. 6(金)	0.007	—	0.004	○	0.002
		H29. 10. 7(土)	0.007	—	0.003	○	0.001
		H29. 10. 8(日)	0.004	—	0.002	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.004	—	0.002	○	0.000
		H29. 10. 10(火)	0.007	—	0.003	○	0.001
年 間		0.009 (最高)	—	0.002 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-8. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (二酸化窒素 St. 4)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			—		0.04~0.06ppm以下		—
St. 4 岡谷市役所	冬季	H29. 2. 1(水)	0.009	—	0.002	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.004	—	0.000	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.006	—	0.001	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.006	—	0.001	○	0.000
		H29. 2. 5(日)	0.008	—	0.003	○	0.001
		H29. 2. 6(月)	0.013	—	0.001	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.000	—	0.000	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.019	—	0.004	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.017	—	0.007	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.019	—	0.008	○	0.000
		H29. 4. 15(土)	0.015	—	0.004	○	0.000
		H29. 4. 16(日)	0.020	—	0.006	○	0.001
		H29. 4. 17(月)	0.020	—	0.007	○	0.001
		H29. 4. 18(火)	0.013	—	0.003	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.007	—	0.004	○	0.002
		H29. 7. 27(木)	0.011	—	0.005	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.009	—	0.005	○	0.003
		H29. 7. 29(土)	0.008	—	0.004	○	0.002
		H29. 7. 30(日)	0.007	—	0.003	○	0.002
		H29. 7. 31(月)	0.011	—	0.004	○	0.002
		H29. 8. 1(火)	0.010	—	0.006	○	0.003
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.010	—	0.005	○	0.002
		H29. 10. 5(木)	0.009	—	0.007	○	0.004
		H29. 10. 6(金)	0.014	—	0.008	○	0.005
		H29. 10. 7(土)	0.011	—	0.006	○	0.003
		H29. 10. 8(日)	0.011	—	0.006	○	0.002
		H29. 10. 9(月)	0.018	—	0.007	○	0.003
		H29. 10. 10(火)	0.017	—	0.008	○	0.003
年 間		0.020 (最高)	—	0.004 (年平均)	○	0.000 (最低)	

3. 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の事後調査結果と環境基準値との適合状況を表1-9～表1-12(P. 1-12)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で環境基準の1時間値(0.20mg/m³以下)及び1日平均値(0.10mg/m³以下)を下回っていた。

表1-9. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (浮遊粒子状物質 St. 1)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.20mg/m ³ 以下		0.10mg/m ³ 以下		—
St. 1 諏訪湖周CC	冬季	H29. 2. 1(水)	0.012	○	0.006	○	0.001
		H29. 2. 2(木)	0.006	○	0.003	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.011	○	0.005	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.013	○	0.009	○	0.002
		H29. 2. 5(日)	0.016	○	0.008	○	0.005
		H29. 2. 6(月)	0.021	○	0.007	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.017	○	0.007	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.026	○	0.012	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.046	○	0.015	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.043	○	0.018	○	0.003
		H29. 4. 15(土)	0.039	○	0.024	○	0.004
		H29. 4. 16(日)	0.044	○	0.022	○	0.000
		H29. 4. 17(月)	0.045	○	0.016	○	0.001
		H29. 4. 18(火)	0.034	○	0.010	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.035	○	0.011	○	0.000
		H29. 7. 27(木)	0.032	○	0.010	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.028	○	0.015	○	0.000
		H29. 7. 29(土)	0.035	○	0.019	○	0.001
		H29. 7. 30(日)	0.030	○	0.011	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.038	○	0.022	○	0.002
		H29. 8. 1(火)	0.045	○	0.023	○	0.007
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.022	○	0.010	○	0.000
		H29. 10. 5(木)	0.047	○	0.015	○	0.000
		H29. 10. 6(金)	0.028	○	0.010	○	0.000
		H29. 10. 7(土)	0.039	○	0.011	○	0.000
		H29. 10. 8(日)	0.037	○	0.013	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.035	○	0.015	○	0.000
		H29. 10. 10(火)	0.061	○	0.019	○	0.000
年 間		0.061 (最高)	○	0.013 (年平均)	○	0.000 (最低)	

備考1) 1日24時間測定(毎正時測定)

備考2) 1時間値の評価による「○」とは、1日平均値がすべて0.10mg/m³以下であり、かつ1時間値がすべての測定時間において0.20mg/m³以下であることをいう。

備考3) 1日平均値の評価による「○」とは、1日平均値が0.10mg/m³以下であることをいう。

表1-10. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (浮遊粒子状物質 St. 2)

調査地点	調査時期	1時間値		1日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		0.20mg/m ³ 以下		0.10mg/m ³ 以下		—	
St. 2 樋沢地区	冬季	H29. 2. 1(水)	0.011	○	0.004	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.021	○	0.006	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.007	○	0.002	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.017	○	0.007	○	0.000
		H29. 2. 5(日)	0.010	○	0.004	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.013	○	0.003	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.018	○	0.007	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.047	○	0.010	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.024	○	0.010	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.041	○	0.013	○	0.000
		H29. 4. 15(土)	0.045	○	0.023	○	0.004
		H29. 4. 16(日)	0.040	○	0.016	○	0.002
		H29. 4. 17(月)	0.044	○	0.013	○	0.000
		H29. 4. 18(火)	0.053	○	0.012	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.034	○	0.015	○	0.000
		H29. 7. 27(木)	0.029	○	0.012	○	0.000
		H29. 7. 28(金)	0.035	○	0.015	○	0.000
		H29. 7. 29(土)	0.034	○	0.020	○	0.000
		H29. 7. 30(日)	0.032	○	0.016	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.033	○	0.018	○	0.000
		H29. 8. 1(火)	0.033	○	0.023	○	0.000
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.025	○	0.012	○	0.001
		H29. 10. 5(木)	0.046	○	0.016	○	0.006
		H29. 10. 6(金)	0.019	○	0.013	○	0.005
		H29. 10. 7(土)	0.027	○	0.010	○	0.001
		H29. 10. 8(日)	0.032	○	0.015	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.037	○	0.018	○	0.005
		H29. 10. 10(火)	0.038	○	0.022	○	0.006
年間		0.053 (最高)	○	0.013 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-11. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (浮遊粒子状物質 St. 3)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			0.20mg/m ³ 以下		0.10mg/m ³ 以下		—
St. 3 勝 弦 峠	冬季	H29. 2. 1(水)	0.009	○	0.003	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.008	○	0.002	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.022	○	0.004	○	0.000
		H29. 2. 4(土)	0.024	○	0.009	○	0.002
		H29. 2. 5(日)	0.021	○	0.006	○	0.000
		H29. 2. 6(月)	0.026	○	0.005	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.013	○	0.004	○	0.000
	春季	H29. 4. 12(水)	0.030	○	0.010	○	0.000
		H29. 4. 13(木)	0.027	○	0.012	○	0.000
		H29. 4. 14(金)	0.027	○	0.012	○	0.000
		H29. 4. 15(土)	0.032	○	0.010	○	0.000
		H29. 4. 16(日)	0.034	○	0.014	○	0.003
		H29. 4. 17(月)	0.035	○	0.009	○	0.000
		H29. 4. 18(火)	0.035	○	0.013	○	0.000
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.035	○	0.011	○	0.000
		H29. 7. 27(木)	0.035	○	0.009	○	0.000
		H29. 7. 28(金)	0.035	○	0.012	○	0.000
		H29. 7. 29(土)	0.034	○	0.018	○	0.000
		H29. 7. 30(日)	0.021	○	0.004	○	0.000
		H29. 7. 31(月)	0.028	○	0.014	○	0.000
		H29. 8. 1(火)	0.028	○	0.013	○	0.000
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.012	○	0.004	○	0.000
		H29. 10. 5(木)	0.025	○	0.008	○	0.000
		H29. 10. 6(金)	0.021	○	0.006	○	0.000
		H29. 10. 7(土)	0.009	○	0.002	○	0.000
		H29. 10. 8(日)	0.015	○	0.005	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.019	○	0.010	○	0.000
		H29. 10. 10(火)	0.027	○	0.012	○	0.000
年 間		0.035 (最高)	○	0.009 (年平均)	○	0.000 (最低)	

表1-12. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (浮遊粒子状物質 St. 4)

調査地点	調査時期	1時間値		1日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		0.20mg/m ³ 以下		0.10mg/m ³ 以下		—	
St. 4 岡谷市役所	冬季	H29. 2. 1(水)	0.021	○	0.007	○	0.000
		H29. 2. 2(木)	0.010	○	0.003	○	0.000
		H29. 2. 3(金)	0.012	○	0.006	○	0.001
		H29. 2. 4(土)	0.013	○	0.010	○	0.007
		H29. 2. 5(日)	0.023	○	0.015	○	0.008
		H29. 2. 6(月)	0.021	○	0.009	○	0.000
		H29. 2. 7(火)	0.015	○	0.007	○	0.002
	春季	H29. 4. 12(水)	0.017	○	0.009	○	0.002
		H29. 4. 13(木)	0.019	○	0.014	○	0.008
		H29. 4. 14(金)	0.031	○	0.021	○	0.011
		H29. 4. 15(土)	0.031	○	0.022	○	0.013
		H29. 4. 16(日)	0.028	○	0.022	○	0.012
		H29. 4. 17(月)	0.026	○	0.017	○	0.002
		H29. 4. 18(火)	0.019	○	0.008	○	0.001
	夏季	H29. 7. 26(水)	0.034	○	0.013	○	0.000
		H29. 7. 27(木)	0.019	○	0.009	○	0.001
		H29. 7. 28(金)	0.027	○	0.014	○	0.004
		H29. 7. 29(土)	0.031	○	0.019	○	0.007
		H29. 7. 30(日)	0.016	○	0.009	○	0.001
		H29. 7. 31(月)	0.030	○	0.017	○	0.009
		H29. 8. 1(火)	0.031	○	0.021	○	0.010
	秋季	H29. 10. 4(水)	0.016	○	0.006	○	0.000
		H29. 10. 5(木)	0.032	○	0.010	○	0.000
		H29. 10. 6(金)	0.016	○	0.008	○	0.000
		H29. 10. 7(土)	0.016	○	0.003	○	0.000
		H29. 10. 8(日)	0.053	○	0.010	○	0.000
		H29. 10. 9(月)	0.054	○	0.013	○	0.000
		H29. 10. 10(火)	0.053	○	0.015	○	0.000
年 間		0.054 (最高)	○	0.012 (年平均)	○	0.000 (最低)	

4. 微小粒子状物質

微小粒子状物質の事後調査結果と環境基準値との適合状況を表1-13～表1-16(P. 1-16)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で環境基準の1日平均値(35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)及び年平均値(15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)を下回っていた。

表1-13. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (微小粒子状物質 St. 1)

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			—		35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下		—
St. 1 諏訪湖周CC	冬季	H29. 2. 1(水)	10	—	4	○	1
		H29. 2. 2(木)	3	—	2	○	0
		H29. 2. 3(金)	6	—	3	○	1
		H29. 2. 4(土)	7	—	6	○	4
		H29. 2. 5(日)	13	—	6	○	2
		H29. 2. 6(月)	20	—	5	○	0
		H29. 2. 7(火)	14	—	6	○	1
	春季	H29. 4. 12(水)	11	—	4	○	0
		H29. 4. 13(木)	13	—	7	○	3
		H29. 4. 14(金)	29	—	15	○	2
		H29. 4. 15(土)	28	—	15	○	8
		H29. 4. 16(日)	18	—	14	○	11
		H29. 4. 17(月)	20	—	10	○	1
		H29. 4. 18(火)	11	—	5	○	0
	夏季	H29. 7. 26(水)	13	—	5	○	0
		H29. 7. 27(木)	12	—	5	○	0
		H29. 7. 28(金)	16	—	9	○	4
		H29. 7. 29(土)	25	—	10	○	1
		H29. 7. 30(日)	14	—	5	○	2
		H29. 7. 31(月)	25	—	12	○	5
		H29. 8. 1(火)	19	—	12	○	6
	秋季	H29. 10. 4(水)	2	—	1	○	0
		H29. 10. 5(木)	36	—	15	○	0
		H29. 10. 6(金)	19	—	7	○	0
		H29. 10. 7(土)	34	—	15	○	0
		H29. 10. 8(日)	19	—	10	○	3
		H29. 10. 9(月)	18	—	8	○	3
		H29. 10. 10(火)	25	—	13	○	2
年 間		36 (最高)	—	8 (年平均)	○	0 (最低)	

備考1) 1日24時間測定(毎正時測定)

備考2) 1日平均値の評価による「○」とは、1日平均値がすべて35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることをいう。

表1-14. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (微小粒子状物質 St. 2)

調査地点	調査時期	1 時間値		1 日平均値		最低値	
		調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果	
環境基準値		-		35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下		-	
St. 2 樋沢地区	冬季	H29. 2. 1(水)	13	-	8	○	4
		H29. 2. 2(木)	5	-	3	○	2
		H29. 2. 3(金)	9	-	6	○	2
		H29. 2. 4(土)	16	-	11	○	7
		H29. 2. 5(日)	15	-	9	○	6
		H29. 2. 6(月)	34	-	12	○	4
		H29. 2. 7(火)	27	-	11	○	4
	春季	H29. 4. 12(水)	28	-	7	○	0
		H29. 4. 13(木)	25	-	5	○	0
		H29. 4. 14(金)	40	-	18	○	0
		H29. 4. 15(土)	38	-	21	○	10
		H29. 4. 16(日)	30	-	18	○	7
		H29. 4. 17(月)	25	-	11	○	1
		H29. 4. 18(火)	40	-	12	○	0
	夏季	H29. 7. 26(水)	17	-	5	○	1
		H29. 7. 27(木)	11	-	4	○	1
		H29. 7. 28(金)	14	-	7	○	2
		H29. 7. 29(土)	15	-	9	○	1
		H29. 7. 30(日)	12	-	5	○	1
		H29. 7. 31(月)	19	-	10	○	3
		H29. 8. 1(火)	21	-	11	○	6
	秋季	H29. 10. 4(水)	5	-	3	○	2
		H29. 10. 5(木)	17	-	8	○	2
		H29. 10. 6(金)	12	-	8	○	3
		H29. 10. 7(土)	17	-	8	○	2
		H29. 10. 8(日)	16	-	9	○	2
		H29. 10. 9(月)	20	-	9	○	3
		H29. 10. 10(火)	37	-	14	○	3
年 間		40 (最高)	-	9 (年平均)	○	0 (最低)	

表1-15. 事後調査結果と環境基準値との適合状況（微小粒子状物質 St. 3）

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			—		35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下		—
St. 3 勝 弦 峠	冬季	H29. 2. 1(水)	11	—	6	○	3
		H29. 2. 2(木)	3	—	1	○	-2
		H29. 2. 3(金)	7	—	3	○	0
		H29. 2. 4(土)	12	—	8	○	5
		H29. 2. 5(日)	21	—	8	○	6
		H29. 2. 6(月)	28	—	11	○	5
		H29. 2. 7(火)	22	—	7	○	0
	春季	H29. 4. 12(水)	15	—	8	○	0
		H29. 4. 13(木)	14	—	7	○	2
		H29. 4. 14(金)	31	—	18	○	8
		H29. 4. 15(土)	31	—	18	○	8
		H29. 4. 16(日)	22	—	17	○	11
		H29. 4. 17(月)	19	—	11	○	2
		H29. 4. 18(火)	11	—	6	○	1
	夏季	H29. 7. 26(水)	21	—	8	○	1
		H29. 7. 27(木)	17	—	6	○	2
		H29. 7. 28(金)	22	—	10	○	2
		H29. 7. 29(土)	20	—	8	○	1
		H29. 7. 30(日)	17	—	6	○	1
		H29. 7. 31(月)	35	—	14	○	2
		H29. 8. 1(火)	19	—	7	○	2
	秋季	H29. 10. 4(水)	14	—	12	○	7
		H29. 10. 5(木)	15	—	8	○	1
		H29. 10. 6(金)	13	—	8	○	3
		H29. 10. 7(土)	13	—	10	○	5
		H29. 10. 8(日)	10	—	6	○	2
		H29. 10. 9(月)	8	—	3	○	0
		H29. 10. 10(火)	29	—	19	○	0
年 間		35 (最高)	—	9 (年平均)	○	-2 (最低)	

備考) 微小粒子状物質濃度が極めて低い場合には、自動測定機の測定原理による誤差等で指示（測定）値がマイナス値になることがある。その場合は、1日平均値の算出を含めてマイナス値はそのままマイナス値として扱うこととされている。測定結果がマイナス値となる場合は、「測定できないほど低い値」と解釈される。

表1-16. 事後調査結果と環境基準値との適合状況（微小粒子状物質 St. 4）

調査地点	調査時期		1時間値		1日平均値		最低値
			調査結果	評価	調査結果	評価	調査結果
環境基準値			—		35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下		—
St. 4 岡谷市役所	冬季	H29. 2. 1(水)	22	—	10	○	4
		H29. 2. 2(木)	5	—	2	○	0
		H29. 2. 3(金)	11	—	6	○	2
		H29. 2. 4(土)	16	—	11	○	6
		H29. 2. 5(日)	44	—	25	○	11
		H29. 2. 6(月)	42	—	20	○	12
		H29. 2. 7(火)	23	—	8	○	1
	春季	H29. 4. 12(水)	13	—	6	○	1
		H29. 4. 13(木)	18	—	9	○	3
		H29. 4. 14(金)	34	—	20	○	4
		H29. 4. 15(土)	29	—	18	○	8
		H29. 4. 16(日)	22	—	16	○	12
		H29. 4. 17(月)	22	—	13	○	1
		H29. 4. 18(火)	22	—	8	○	1
	夏季	H29. 7. 26(水)	28	—	8	○	1
		H29. 7. 27(木)	32	—	9	○	0
		H29. 7. 28(金)	23	—	12	○	3
		H29. 7. 29(土)	21	—	10	○	1
		H29. 7. 30(日)	23	—	9	○	1
		H29. 7. 31(月)	28	—	14	○	4
		H29. 8. 1(火)	16	—	11	○	2
	秋季	H29. 10. 4(水)	3	—	2	○	0
		H29. 10. 5(木)	30	—	9	○	2
		H29. 10. 6(金)	10	—	6	○	0
		H29. 10. 7(土)	3	—	1	○	0
		H29. 10. 8(日)	11	—	4	○	1
		H29. 10. 9(月)	14	—	7	○	3
		H29. 10. 10(火)	25	—	11	○	6
年 間		44 (最高)	—	10 (年平均)	○	0 (最低)	

5. 塩化水素

塩化水素の事後調査結果と目標環境濃度値との適合状況を表1-17に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で目標環境濃度値(0.02ppm以下)*を下回っていた。

*塩化水素は環境基準が定められていないが、環境庁大気保全局長通達(昭和52年環大規第136号)において「目標環境濃度は、日本産業衛生学会「許容濃度に関する委員会勧告」に示された労働環境濃度を参考として0.02ppm」と示されていることから、本値を参考値として掲げた。

表1-17. 事後調査結果と目標環境濃度値との適合状況(塩化水素 St. 1、St. 2)

調査時期		事後調査結果			
		St. 1		St. 2	
		調査結果	評価	調査結果	評価
目標環境濃度値(年平均値)		0.02 ppm 以下			
冬季	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.0001	—	0.0001	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	0.0001	—	0.0001	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	0.0002	—	0.0001未満	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
年間	最高値	0.0002	○	0.0001	○
	平均値	0.0001	○	0.0001	○
	最低値	0.0001未満	○	0.0001未満	○

(塩化水素 St. 3、St. 4)

調査時期		事後調査結果			
		St. 3		St. 4	
		調査結果	評価	調査結果	評価
目標環境濃度値(年平均値)		0.02 ppm 以下			
冬季	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.0001	—	0.0001	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	0.0001未満	—	0.0001	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	0.0001	—	0.0002	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	0.0001未満	—	0.0001未満	—
年間	最高値	0.0001	○	0.0002	○
	平均値	0.0001	○	0.0001	○
	最低値	0.0001未満	○	0.0001未満	○

備考) 各日のデータは24時間累積値である。

6. ダイオキシン類

ダイオキシン類の事後調査結果と環境基準値との適合状況を表1-18に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で環境基準値(0.6pg-TEQ/m³)を下回っていた。

表1-18. 事後調査結果と環境基準値との適合状況 (ダイオキシン類)

調査時期			事後調査結果			
			ポリ塩化ジベンゾフラン、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン (PCDDs+PCDFs)	コプラナーポリ塩化ビフェニル (コプラナー-PCB)	計	評価
環境基準値 (年平均値)			0.6 pg-TEQ/m ³ 以下			
St. 1	冬季	H29. 2. 1～ 2. 7	0.0041632	0.00032021	0.0045	—
	春季	H29. 4. 12～ 4. 18	0.0035991	0.00052731	0.0041	—
	夏季	H29. 7. 26～ 8. 1	0.0030251	0.00078229	0.0038	—
	秋季	H29. 10. 4～10. 10	0.0054126	0.00054732	0.0060	—
	年 平 均 値					0.0046
St. 2	冬季	H29. 2. 1～ 2. 7	0.0036462	0.00032430	0.0040	—
	春季	H29. 4. 12～ 4. 18	0.0037525	0.00045391	0.0042	—
	夏季	H29. 7. 26～ 8. 1	0.0036754	0.00098713	0.0047	—
	秋季	H29. 10. 4～10. 10	0.0050944	0.00065001	0.0057	—
	年 平 均 値					0.0047
St. 3	冬季	H29. 2. 1～ 2. 7	0.0032755	0.00021855	0.0035	—
	春季	H29. 4. 12～ 4. 18	0.0032490	0.00032415	0.0036	—
	夏季	H29. 7. 26～ 8. 1	0.0032651	0.00087545	0.0041	—
	秋季	H29. 10. 4～10. 10	0.0032614	0.00044560	0.0037	—
	年 平 均 値					0.0037
St. 4	冬季	H29. 2. 1～ 2. 7	0.0056705	0.00033253	0.0060	—
	春季	H29. 4. 12～ 4. 18	0.0037958	0.00064379	0.0044	—
	夏季	H29. 7. 26～ 8. 1	0.0044590	0.00143300	0.0059	—
	秋季	H29. 10. 4～10. 10	0.0040556	0.00065873	0.0047	—
	年 平 均 値					0.0053

備考1) ダイオキシン類は、ポリ塩化ジベンゾフラン、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルの総称をいう。

備考2) 各調査結果は1日24時間×7日間の累積値を毒性等量で表したものであり、有効数字2桁で表示した。

備考3) 各異性体の毒性当量は、検出下限値以上の測定値はそのまま用い、検出下限値未満のものは検出下限値の1/2の値を用いて算出した。

備考4) 毒性当量は、「WHO-TEF(2006)」の毒性等価係数(TEF=Toxic Equivalency Factor)を用いて、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾパラジオキシン(2,3,7,8-TeCDD)の毒性に換算した総量を示したものの。

7. カドミウム及びその化合物

カドミウム及びその化合物の事後調査結果と許容限界値との適合状況を表1-19及び表20(次頁)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で許容限界値(10,000ng/m³以下)*を下回っていた。

*カドミウム及びその化合物は環境基準値が定められていないが、米国産業衛生専門家会議(ACGIH)が「通常1日8時間及び1週間に40時間の労働時間に対する時間加重平均濃度(TLV-TWA)として、又は15分間の短時間ばく露限界(TLV-STEL)として、又は、作業中のばく露のいかなる時でも超えてはならない濃度である上限値(TLV-C)として、10,000ng/m³以下であること。」と定めていることから、本値を参考値として掲げた。

表1-19. 事後調査結果と許容限界値との適合状況 (カドミウム St. 1、St. 2)

調査時期		事後調査結果			
		St. 1		St. 2	
		調査結果	評価	調査結果	評価
許容限界値(年平均値)		10,000 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～2. 1(水)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 4(土)～2. 5(日)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 5(日)～2. 6(月)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 6(月)～2. 7(火)	0.011未満	—	0.011未満	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.034未満	—	0.034未満	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	0.034未満	—	0.034未満	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	0.070	—	0.080	—
	H29. 4. 15(土)～4. 16(日)	0.035	—	0.045	—
	H29. 4. 16(日)～4. 17(月)	0.037	—	0.046	—
	H29. 4. 17(月)～4. 18(火)	0.034未満	—	0.034未満	—
	H29. 4. 18(火)～4. 19(水)	0.034未満	—	0.034未満	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 28(金)～7. 29(土)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 29(土)～7. 30(日)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 30(日)～7. 31(月)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 31(月)～8. 1(火)	0.023未満	—	0.023未満	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.026	—	0.039	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.059	—	0.067	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	0.071	—	0.077	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	0.020未満	—	0.020未満	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	0.020未満	—	0.027	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	0.021	—	0.052	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	0.052	—	0.062	—
年間	最高値	0.071	○	0.080	○
	平均値	0.028	○	0.032	○
	最低値	0.011未満	○	0.011未満	○

備考1) 各季7日間(1日1検体)の試料採取。

備考2) 各日のデータは24時間累積値である。

表1-20. 事後調査結果と許容限界値との適合状況 (カドミウム St. 3、St. 4)

調査時期		事後調査結果			
		St. 3		St. 4	
		調査結果	評価	調査結果	評価
許容限界値(年平均値)		10,000 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～2. 1(水)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 4(土)～2. 5(日)	0.011未満	—	0.016	—
	H29. 2. 5(日)～2. 6(月)	0.011未満	—	0.011未満	—
	H29. 2. 6(月)～2. 7(火)	0.011未満	—	0.011未満	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.034未満	—	0.034未満	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	0.036	—	0.034未満	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	0.078	—	0.072	—
	H29. 4. 15(土)～4. 16(日)	0.049	—	0.035	—
	H29. 4. 16(日)～4. 17(月)	0.035	—	0.040	—
	H29. 4. 17(月)～4. 18(火)	0.034未満	—	0.034未満	—
	H29. 4. 18(火)～4. 19(水)	0.034未満	—	0.034未満	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 28(金)～7. 29(土)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 29(土)～7. 30(日)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 30(日)～7. 31(月)	0.023未満	—	0.023未満	—
	H29. 7. 31(月)～8. 1(火)	0.023未満	—	0.023未満	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.020未満	—	0.037	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.044	—	0.051	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	0.053	—	0.15	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	0.020未満	—	0.020未満	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	0.020未満	—	0.035	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	0.062	—	0.038	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	0.061	—	0.061	—
年間	最高値	0.078	○	0.15	○
	平均値	0.029	○	0.033	○
	最低値	0.011未満	○	0.011未満	○

8. 鉛及びその化合物

鉛及びその化合物の事後調査結果と管理濃度値との適合状況を表1-21及び表1-22(次頁)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で管理濃度値(50,000ng/m³以下)*を下回っていた。

*鉛及びその化合物は環境基準値が定められていないが、作業環境評価基準(昭和51年労働省告示第46号)第2条別表に掲げる管理濃度を定めていることから、本値を参考値として掲げた。

表1-21. 事後調査結果と管理濃度値との適合状況 (鉛 St. 1、St. 2)

調査時期		事後調査結果			
		St. 1		St. 2	
		調査結果	評価	調査結果	評価
管理濃度値(年平均値)		50,000 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～2. 1(水)	0.22	—	0.18	—
	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.051	—	0.069	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.084	—	0.065	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.15	—	0.16	—
	H29. 2. 4(土)～2. 5(日)	0.33	—	0.27	—
	H29. 2. 5(日)～2. 6(月)	0.16	—	0.078	—
	H29. 2. 6(月)～2. 7(火)	0.29	—	0.33	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.50	—	0.73	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	1.2	—	1.3	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	2.8	—	2.9	—
	H29. 4. 15(土)～4. 16(日)	1.7	—	2.0	—
	H29. 4. 16(日)～4. 17(月)	1.8	—	2.1	—
	H29. 4. 17(月)～4. 18(火)	0.85	—	0.75	—
	H29. 4. 18(火)～4. 19(水)	0.65	—	0.43	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.046	—	0.064	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.042	—	0.064	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.033	—	0.063	—
	H29. 7. 28(金)～7. 29(土)	0.068	—	0.10	—
	H29. 7. 29(土)～7. 30(日)	0.021	—	0.029	—
	H29. 7. 30(日)～7. 31(月)	0.044	—	0.048	—
	H29. 7. 31(月)～8. 1(火)	0.10	—	0.096	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.28	—	0.43	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.29	—	0.42	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	1.0	—	1.2	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	0.10	—	0.10	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	0.12	—	0.18	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	0.21	—	0.35	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	0.42	—	0.47	—
年間	最高値	2.8	○	2.9	○
	平均値	0.48	○	0.53	○
	最低値	0.021	○	0.029	○

備考1) 各季7日間(1日1検体)の試料採取。

備考2) 各日のデータは24時間累積値である。

表1-22. 事後調査結果と管理濃度値との適合状況 (鉛 St. 3、St. 4)

調査時期		事後調査結果			
		St. 3		St. 4	
		調査結果	評価	調査結果	評価
管理濃度値(年平均値)		50,000 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～2. 1(水)	0.18	—	0.41	—
	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	0.048	—	0.096	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	0.054	—	0.25	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	0.13	—	0.17	—
	H29. 2. 4(土)～2. 5(日)	0.22	—	0.58	—
	H29. 2. 5(日)～2. 6(月)	0.065	—	0.26	—
	H29. 2. 6(月)～2. 7(火)	0.25	—	0.095	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	0.60	—	0.83	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	1.4	—	1.1	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	2.8	—	2.7	—
	H29. 4. 15(土)～4. 16(日)	2.0	—	2.1	—
	H29. 4. 16(日)～4. 17(月)	1.8	—	2.5	—
	H29. 4. 17(月)～4. 18(火)	0.57	—	1.0	—
	H29. 4. 18(火)～4. 19(水)	0.38	—	0.42	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	0.045	—	0.051	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	0.039	—	0.053	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	0.034	—	0.037	—
	H29. 7. 28(金)～7. 29(土)	0.056	—	0.065	—
	H29. 7. 29(土)～7. 30(日)	0.016	—	0.026	—
	H29. 7. 30(日)～7. 31(月)	0.042	—	0.041	—
	H29. 7. 31(月)～8. 1(火)	0.088	—	0.074	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	0.17	—	0.31	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	0.25	—	0.40	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	0.84	—	1.7	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	0.048	—	0.30	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	0.11	—	0.19	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	0.36	—	0.32	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	0.41	—	0.49	—
年間	最高値	2.8	○	2.7	○
	平均値	0.46	○	0.59	○
	最低値	0.016	○	0.026	○

9. 水銀

水銀の事後調査結果と指針値との適合状況を表1-23及び表1-24(次頁)に示す。

事後調査の結果、すべての調査地点で指針値(40ng/m³以下)を下回っていた。

表1-23. 事後調査結果と指針値との適合状況 (水銀 St. 1、St. 2)

調査時期		事後調査結果			
		St. 1		St. 2	
		調査結果	評価	調査結果	評価
指針値(年平均値)		40 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～ 2. 1(水)	2.0	—	1.6	—
	H29. 2. 1(水)～ 2. 2(木)	2.0	—	1.6	—
	H29. 2. 2(木)～ 2. 3(金)	1.2	—	2.1	—
	H29. 2. 3(金)～ 2. 4(土)	2.0	—	1.7	—
	H29. 2. 4(土)～ 2. 5(日)	2.0	—	1.8	—
	H29. 2. 5(日)～ 2. 6(月)	2.2	—	2.2	—
	H29. 2. 6(月)～ 2. 7(火)	2.2	—	1.4	—
春季	H29. 4. 12(水)～ 4. 13(木)	1.4	—	1.7	—
	H29. 4. 13(木)～ 4. 14(金)	1.5	—	1.6	—
	H29. 4. 14(金)～ 4. 15(土)	2.1	—	2.1	—
	H29. 4. 15(土)～ 4. 16(日)	2.1	—	2.2	—
	H29. 4. 16(日)～ 4. 17(月)	1.8	—	1.9	—
	H29. 4. 17(月)～ 4. 18(火)	2.4	—	2.3	—
	H29. 4. 18(火)～ 4. 19(水)	2.0	—	2.3	—
夏季	H29. 7. 25(火)～ 7. 26(水)	1.3	—	2.7	—
	H29. 7. 26(水)～ 7. 27(木)	1.3	—	2.3	—
	H29. 7. 27(木)～ 7. 28(金)	1.7	—	2.3	—
	H29. 7. 28(金)～ 7. 29(土)	2.0	—	1.9	—
	H29. 7. 29(土)～ 7. 30(日)	2.0	—	2.5	—
	H29. 7. 30(日)～ 7. 31(月)	1.7	—	1.9	—
	H29. 7. 31(月)～ 8. 1(火)	2.2	—	1.9	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	1.6	—	1.2	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	1.7	—	0.7	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	2.5	—	1.2	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	1.9	—	1.3	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	1.8	—	1.6	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	1.6	—	1.4	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	1.7	—	1.0	—
年間	最高値	2.5	○	2.7	○
	平均値	1.9	○	1.8	○
	最低値	1.2	○	0.7	○

備考1) 各季7日間(1日1検体)の試料採取。

備考2) 各日のデータは24時間累積値である。

表1-24. 事後調査結果と指針値との適合状況 (水銀 St. 3、St. 4)

調査時期		事後調査結果			
		St. 3		St. 4	
		調査結果	評価	調査結果	評価
指針値(年平均値)		40 ng/m ³ 以下			
冬季	H29. 1. 31(火)～2. 1(水)	2.2	—	2.4	—
	H29. 2. 1(水)～2. 2(木)	2.3	—	2.3	—
	H29. 2. 2(木)～2. 3(金)	2.4	—	2.4	—
	H29. 2. 3(金)～2. 4(土)	1.9	—	3.0	—
	H29. 2. 4(土)～2. 5(日)	2.6	—	2.5	—
	H29. 2. 5(日)～2. 6(月)	2.5	—	2.1	—
	H29. 2. 6(月)～2. 7(火)	2.2	—	2.3	—
春季	H29. 4. 12(水)～4. 13(木)	1.5	—	3.9	—
	H29. 4. 13(木)～4. 14(金)	2.0	—	3.7	—
	H29. 4. 14(金)～4. 15(土)	2.2	—	3.0	—
	H29. 4. 15(土)～4. 16(日)	2.2	—	4.0	—
	H29. 4. 16(日)～4. 17(月)	1.1	—	3.0	—
	H29. 4. 17(月)～4. 18(火)	2.0	—	5.0	—
	H29. 4. 18(火)～4. 19(水)	2.7	—	3.2	—
夏季	H29. 7. 25(火)～7. 26(水)	2.7	—	2.2	—
	H29. 7. 26(水)～7. 27(木)	2.3	—	2.0	—
	H29. 7. 27(木)～7. 28(金)	2.3	—	1.4	—
	H29. 7. 28(金)～7. 29(土)	2.0	—	1.9	—
	H29. 7. 29(土)～7. 30(日)	2.8	—	1.3	—
	H29. 7. 30(日)～7. 31(月)	2.2	—	1.8	—
	H29. 7. 31(月)～8. 1(火)	3.1	—	2.1	—
秋季	H29. 10. 3(火)～10. 4(水)	1.5	—	1.9	—
	H29. 10. 4(水)～10. 5(木)	1.5	—	1.4	—
	H29. 10. 5(木)～10. 6(金)	1.3	—	1.7	—
	H29. 10. 6(金)～10. 7(土)	1.5	—	1.9	—
	H29. 10. 7(土)～10. 8(日)	1.6	—	2.1	—
	H29. 10. 8(日)～10. 9(月)	1.3	—	1.5	—
	H29. 10. 9(月)～10. 10(火)	1.4	—	2.3	—
年間	最高値	3.1	○	5.0	○
	平均値	2.0	○	2.4	○
	最低値	1.1	○	1.3	○